明治三十五年五月二十五日發行（明治二十年十一月本會創立）

第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日） 毎月一回十五日發行 内務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百五拾號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百五十號　目次

講　演

宇都宮支會講演

寄　書

普通看護法

質疑應答

衞生叢談

中外彙報

食物調理法

大日本婦人衞生會記事

●本會六月例會報告

來六月七日（第一土曜日）午後正一時開會（晴雨共）●會場麴町區虎之門内東京女學館●御知友御誘引差支なし●時間厲行●衣服御質素の事●當日の講師左の如し

家庭看護法　醫學博士　三宅秀君

演題未定　醫學博士　大澤謙二君

●會費未納の御方へ

本會々費は去る四月以降**通常會費**一ヶ月**拾五錢**特別一ヶ月三十錢以上終身會費一時出金貳拾五圓に增額の事は先般來屢々廣告致し置候通に付御未納の御方は此際至急**本會事務所會計係宛**牛込郵便局振込にて御納付有之度候●請取證御入用の御方は一錢五厘切手御封入の事

●追而**甲府地方會員方の會費**は是迄同地方の種々なる人々にて徵集せる趣に候へども右は**以來停止**致し候間必らず本會事務所宛御直送有之度候也

明治三十五年五月

私立大日本婦人衞生會

會計係

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは洵に喜はしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人相謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講義演說談話を聽き互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふくことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治廿二年十二月改正）

●第一章　目的　第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二章　名稱位置　第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三章　會員　第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續は卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第四章　役員　第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉卜皇族の妃殿下に願出るものとす第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　會長の見込を以て役員外特に會員中より臨時指名委員を置くことあるべし●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺位を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第五章　集會　第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會す總會は毎年三月に之を開く若し急要の事項を評議するときは臨時に開會することあるべし評議員會は時々開會し須要の事項を評議す●第十七條　例會には學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意講話せしむることあるべし●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會に誘致し講義演說等を陪聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべきこと）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず●第二十條　規則の改正は總會に於て議定するものとす●第廿一條　議定は總て多數決とし可否同數なるときは會長之を決す●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第六章　會計　第廿三條　會計は一ヶ年の收支を翌年三月總會に報告すべし本會日用支出の爲め事務所に引出置く金額は會計擔任の幹事檢印を要すべし●第七章　支會　第廿四條　地方に於て本會の承認を受け支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記し私立大日本婦人衛生會支會と稱し其規則を定め本會に報告すべし●第廿五條　支會に加入したる者の姓名は支會より本會事務所に報告すべし●第廿六條　支會員は本會々員と同じく本會に會費を納付すべし●第廿七條　支會の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依り支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　支會に於ける衛生上の講義演說談話等の報告は本會雜誌に揭け之を會員に配付すべし支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會の請求を以て其實費を支會より本會に送付すべし●第八章　雜件　第廿九條　本會は毎月一回雜誌を發刊し本會の內外の狀況を報告し又同一の雜誌を會員外の者にも頒つことあるべし●第三十條　會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿冊に登錄し尙

本會雜誌を以て報告すべし第廿二條 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送致として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）第廿三條 會費は東京府下に限り每月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込局宛）振出しあるべし第廿四條 會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし第廿五條 本規則は會長の意見又は會員二十名以上の贊成に依り總會の決議を經るに非されば之を更正することを得ず

東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衞生會

●役員姓名

總裁 小松宮依仁親王妃 周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 濱尾作子

（いろは順）

幹事	鳩山春子
仝	羽田三耕子
仝	穗積歌子
仝	岡田德子
仝	高木かう子
仝	松平芳子
仝	三浦教子
評議員	石川さだ子
仝	濱田捨子
仝	仁禮壽賀子
仝	西升子
仝 男爵夫人	西郁子
仝	德富靜子
仝	緒方悅子
仝 男爵夫人	川口直子
仝 男爵夫人	加藤鈴子
仝	吉武綱枝子
仝 子爵夫人	田中伊代子
仝	高橋孝子
仝	丹波良子
仝 男爵夫人	南部限子
仝	中濱芳子
仝	岡川とし子
仝	山本多悳子
仝 子爵夫人	松前藤子
仝 子爵夫人	松井正子
仝	馬渡玉子
仝 伯爵夫人	松平充子
仝 子爵夫人	秋元宗子
仝	三宅藤子
仝	宮本樂子
仝	宮下吹子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城

本會特別贊成員

（特に本會に於て撰定せられし諸氏）

醫學博士	入澤達吉君
理學博士	飯島魁君
ドクトル	伊澤信平君
地方視學官	色川國士君
醫學士	伊東祐彥君
ドクトル	飯盛挺造君
醫學博士	伊藤隼三君
理學博士	石川千代松君
赤十字社內科主醫	岩井禎造君
新潟	池原康造君
	池田謙齋君
同文部大臣	濱尾新君
前學博士	濱田玄達君
醫學博士	鳩山和夫君
東京	楸原綱四郎君
醫學博士	芳賀榮二郎君
衞生局長	長谷川泰君
新潟	長谷川一詮君
小兒科	小原賴之君
醫學士	林春雄君
醫學博士	緒方正規君
步兵少佐	堀內文次郎君
醫學博士	土肥慶三郎君
醫學博士	岡田和一郎君
醫學博士	大澤謙二君
醫學士	大西秀治君
醫學博士	大澤岳太郎君
一等藥劑官	恩田重信君
醫學士	若杉喜三郎君
男爵	加藤弘之君
ドクトル	加藤照麿君
醫學士	賀古鶴所君
醫學博士	河本重次郎君
藥學博士	樫村清德君
醫學博士	片山國嘉君
醫學士	川上雅量君
ドクトル	金杉英五郎君
醫學士	笠原光興君
醫學博士	高橋順太郎君
ドクトル	高山紀齋君
醫學博士	高木兼寬君
法學博士	高木豐三君
醫學士	田代義德君
新潟	田代亮助君
男爵	高崎正風君
醫學士	竹中成憲君
醫學士	高田耕安君
[illegible]	高橋辰五郎君
藥學博士	丹波敬三君
醫學士	高橋良碩君
藥學博士	田原良純君
醫學博士	坪井次郎君
三等軍醫正	星野從光君
一等軍醫	横井忠國君
大日本教育會長	辻新次君
理學博士	坪井正五郎君
中央衞生會長	長與專齋君
ドクトル	長與稱吉君
男爵	南部烈男君
理學博士 藥學博士	長井長義君
新潟	長井千琴君
醫學博士	中濱東一郎君
新潟	中村男三郎君
醫學士	村松猷三君
醫學博士	隈川宗雄君
醫學博士	栗本東明君
醫學士	山田織彥君
大審院判事	馬屋原彰君
[illegible]	山根正次君
岡山	山川春二君
醫學士	丸茂文貞君
衞生試驗所技手	丸山長四郎君
松山病院	松山棟菴君
ドクトル	小柴六郎君
盲啞學校長	小西信八君
廣島	小泉貞君
醫學士	古川榮君
東京	布施正顯君
臺灣民政局長	後藤新平君
帝國大學教授	エ、ベルツ君
醫學士	中野樂君
文部書記官	寺田勇吉君
子爵	秋元興朝君
前軍醫總監	足立寬君
ドクトル	新井古芳君
新潟	阿部玄四郎君
高崎醫會長	土谷全次君
產科婦人科	水原漸君
醫學博士	佐々木政吉君
醫學士	淺田央君
ドクトル	朝倉文三君
ドクトル	朝山段六君
醫學博士	佐藤三吉君
醫學士	櫻井郁二郎君
醫學士	佐藤恒久君
ドクトル	佐伯理一郎君
ドクトル	榊順次郎君
醫學士	神保三郎君
醫學士	櫻井恆次郎君
醫學士	北村精造君
ドクトル	北川乙二郎君
醫學士	木下正中君
醫學士	北島小太郎君
醫學博士	北里柴三郎君
醫學博士	三浦守治君
醫學博士	三浦謹之助君
小兒科專門	宮本仲君
理學博士	箕作佳吉君
醫學博士	三島通良君
醫學博士	三宅秀君
醫學士	三輪信太郎君
新潟	水野欽君
伯爵	土方久元君
醫學士	島村俊一君
醫學博士	弘田長君
ドクトル	須田卓爾君
	ミス、ヒユース
醫學士	笹川三男三君
醫學士	波多野傳君
醫學博士	奧秀三君
八王子	和田誠賀君

土耳古婦人







婦人衞生會雜誌第百五十號（明治三十五年五月二十日發行）

講演

產褥熱の豫防法

產科婦人科專門　水原漸
佃速記事務所員速記

私は今日初めて本會へ出席を致しまして演說を致しまするのは、私の身に取つて非常なる光榮であります、併し私が今日御話致すことは決して面白いと云ふ程のことでもございませず、且つ私は非常の訥辯でもありまするし、旁々皆樣の欠伸の種となるであらうと思ひます、又今日は雨天の所御出でになりましたにも拘はらず格別何の御土產もないやうな譯で、誠に御氣の毒な次第でありまするが、暫くの間御淸聽を願ひます、それて今一つ中上げて置きたいことは、私の話は貴婦人令孃方の前で御話するに甚だ憚かることが多いのでございまするが、衞生の道を御話するには已むを得ぬことでありますから是亦御承知を願ひたうございます。

それで本日私が御話致しませうと思ひますとは、此處に書いてあります通り「產褥熱豫防法」と云ふ題でございまして、何か產科醫師若くは產婆にても御話をするやうな演題でございまするが、斯樣な題を出したと云ふ譯は私が常々產婆會へ出席致しまして、御產の時の消毒法などをやかましく申します、すると多くの產婆の中には、それはどうも消毒法と云ふことは十分にやらなくてはならないが、實際行はれ難いことである、何故かと云ふのに、產婆の方は消毒のことを實行する考へてはありますが、素人方即ち依賴なさる方が消毒の必要を御認め下さらない、それを無理に致しまするとあの產婆は

面倒のことを言ふ、臆劫のことを言ふと云ふて、從つて其次の産の時にはあんな産婆を頼まずに、他の産婆に頼むと云ふやうな譯になりますから、實に困りますと云ふことを言ひました、そこで私は此消毒と云ふもの丶必要なることを素人方に十分御悟りを願ひ、さうして以來は嚴重なる消毒法を行ふ産婆でなければ、頼まないと云ふ風に、社會一般から産婆に消毒法を促がすと云ふやうに致したいと思ひまして、今日此御話を致す都合になりました。

然らば出産時の消毒法と云ふものは、如何なる目的でするかと申しますれば即ち主として玆に掲げて置きました所の、産褥熱と云ふものを豫め防ぐと云ふに外ならぬのです。

然らば産褥熱と云ふものはどう云ふ病氣であるかと申しますると、是は多く産後に起りまする病氣でありまして、大抵産後四五日の間に發病致しまするが、早いのは翌日若くは二日目三日目位に起ります、もつと晩いのもございまするが、マア多くは四五日間の中に起ります、其最初の容躰と申すのは非常な寒氣を起す、甚だしいのは震えが來る、丁度瘧でゝもあらうかと疑はれる位の震えが參ります、此震えが濟みまするど云ふと續いて大熱を起し、躰溫三十九度若くは四十度或はそれ以上にも昇りまして、顏は赤くなりまするし咽喉が乾く、脈が多くなる呼吸はせはしくなると云ふやうな容躰を起し、續いて下腹に酷く痛みを感じて來る、又産後に帶下と云ふものがあります、其帶下に非常な惡い臭を起して參ります、さう云ふ風に熱が出て又惡寒震ひが參りまして、今日も一度震えた、又明日も明後日も或は日に二度若くは三度位ひ惡寒戰慄致します、斯樣に寒熱往來して、劇しいのは三四日位で斃れると云ふやうな、實に恐るべき病氣であります、今安産をしたと喜び

の未だ終らぬ中に死に別れすると云ふやうな、悲慘極まる所の病氣でございます、併し皆々さう云ふ性質のものばかりでありませぬ時としまして慢性になりまして、躰温は毎日三十八度から三十八度五分位ひの間を昇降致しまして、それが五六週間も續いて顏色は蒼ざめ又は段々瘠せるのもあります、是等も病氣の容躰は違ひまするが、矢張り産褥熱の一種でございます、是から其病氣の原因及來歷に就て少々申上げます。

日本では未だ調査が十分に屆いて居りませぬ故に分りませぬが、獨逸の孛漏西に於きましては、此恐ろしい病氣に罹つて死だ者は隨分澤山あります、千八百十六年から千八百七十六年(今から二十六年前)までの六十年間に於きまして丁度三十二萬千七百九十一人と云ふ多數が、此産褥熱に罹つて沒しました、即ち一ヶ年の平均五千三百六十三人が此産褥熱で沒くなつた譯でございます、而も皆妙齡の婦人でございます、其當時に矢張り虎列剌とか天然痘とか其他の傳染病も流行しましたが、それよりも尙ほ多數に此産褥熱患者を出した譯であります、孛漏西一國でさへ斯樣な數でありまするから、世界中で調べたらどれだけ澤山にあるか分らない、併し斯う云ふ病氣は一時に澤山流行すると云ふことでありませぬから、他の傳染病のやうに目立ちませぬし又人も騷ぎませぬ、併し他の病氣と違ひまして、時節構はず年中何處の國にも有る病氣であります、それでございますから一時に澤山死なゝくても、隨分此の爲に生命を失ふ者が多からうと思ひます。

産褥熱の起る原因に就ては俗間では乳出方が惡くなつて、それが爲に乳が躰内で腐敗して起ると云ふことを言ひまするし、或は産後に滋養物を食べ過ぎるからだとか色々の說がありました、醫師の方に於き

ましても此病氣の本性及び原因が判然致しませなかつたが、十九世紀に於きまして初めて其原因を發見致しました、即ち千八百三十七年（今より六十五年前）獨逸の醫師が產褥熱と云ふは、矢張り傳染病だと云ふことを說き初めました、併しさう云ふたばかりで一向豫防することは出來ませぬでした、其後十年を經ちまして千八百四十七年（今から五十五年前）當時「ウヰン」の產科教室の助手をして居りました「ゼンメルワイス」と云ふ人が、初めて其原因及豫防法を發見致しまして、實に人生幸福の爲に無上の利益を世間に與へられました。

今其發見されました來歷を申し述べますれば、其處には醫學生の實地研究に供へて居りました產婦と、產婆の生徒の實地研究に供へまする產婦と兩方に室を別ちまして、二つの室に產婦を置きました、隨分數が澤山ある、年に千幾らと云ふ位の產をする病院です、所が醫學生の研究に供へた方の產婦は、產婆生徒の研究に供へましたのより多數に產褥熱に罹りました、丁度其頃醫學生の方は傍ら屍體解剖に從事して居つた時でありました、そこで「ゼンメルワイス」先生は醫學生は解剖をするから、手に何か不潔物が附いて居る、其手で診察をするからそれで產褥熱を起すと云ふ考を起しました、それからもう一つは此先生に取つては非常なる不幸なることが、其發明を一層確めました、それはどう云ふことであつたかと云ふに、先生の友人に矢張り「ウヰン」の裁判醫學の博士「コレチユカ」と云ふ人がございました、此人は屍體解剖の時に指に傷を受けまして、其傷から腐敗毒が這入りました其爲に沒くなられました「ゼンメルワイス」先生は此友人を解剖しましたるに、其腹部內臟の變化してある狀態は、丁度產褥熱で死んだ婦人に顯はるゝと同じやうな變化を起し

て居りました、それて「センメルワイス」と云ふ人は產褥熱と云ふ病氣も矢張り屍毒のやうな腐敗動物質がお產の時に出來た陰部の傷中に（產後には陰部に隨分傷が出來るもので）這入るから來るのであると云ふことを氣付かれた、そこで益々研究を致しまして、產褥熱の多くは其毒物の附いて居る所の產婆、若くは產科醫師の手或は器械に依り、（內診と申しまして產婆とか醫師が生殖器の內部に手を入れて診ることがある）、內診の時に手などに附いて居る毒物を生殖器の中に導き入れる爲であらうと、斯う考へまして、直ぐに實地に試みました、即ち此「センメルワイス」先生の敎室に於きましては、產婦又は褥婦を診察する前に格魯見水と云ふ消毒藥を以て、手を十分に洗ふことに極めました、手に不潔物が着いて居るから之を消毒藥で洗ふのてあります、即ち是が今日色々な傳染病にやかましく言ふ所の消毒法の始まりてあります、其結果と云ふものはどうてあるかと言ふに、非常な有力なる證明を與へました、即ち其病院に於きまして千八百四十年から千八百四十六年の間に每年一千人の中平均九十九人と云ふものは、產褥熱に罹つて死にました、それから手を消毒することを勵行しました以來、初めの二ヶ年に於てすら產褥熱に罹つて死ぬ者は一千人の產婦の中僅か十二人となりました、（九十九人が十二人に減じました）、それにも拘はらず此時代には色々な反對論者がありまして、此人の說は世間一般の信認を得ることが出來なかつた、惜いことに此有望なる所の經驗を持つたる先生は、遂に千八百六十五年に沒くなりました、併し先生は沒くなりましたけれども、正義と云ふものは世に捨てられないものてありまして、其後千八百六十七年に英國の外科醫者の「リスター」と云ふ人、彼の有名なる防腐法と云ふものを發明しま

した、「リスター」氏が之を發明したと云ふものは、矢張り「ゼンメルワイス」先生が産科消毒に用ひた原理を外科上に應用しましたもので、其「リスター」氏の防腐法は實地上良い成蹟を擧げました爲に、世間から歡迎せられまして益々改良して、今日の如く外科の治療上に大なる進歩を與へました譯であります、して見れば總ての傳染病の消毒と云ふものゝ其本は皆産科から起つたと云ふことは明らかでございます然るに今日の有様では却つて其本家本元が此消毒を忽かせに致しますやうになつて居りますは、實に歎かはしい次第でございまする。

西洋各國の産院に於きまして産婦の消毒を行ひ始めたのは、今から大約二十年前でございましてさう遠くはない、今三ヶ所で消毒を實施した成蹟を擧げて見ますれば、第一佛蘭西の大病院「マテルニテー」と云ふ病院に於きまして、千八百六十九年に産婦千人中に九十人は産褥熱に罹つて死亡致しました、是はまだ消毒法を行はぬ時です、それから次の年千八百七十年は此産院に於きまして消毒法はやりませんだけれども、産褥熱に罹つた婦人と、産褥熱に罹らぬ健康の婦人とを區別して置きました、それですら千人中産褥熱に罹りしもの二十三人に減じました、續いて千八百八十一年には初めて此佛蘭西でも、消毒法を行ふことになりまして、其時には一千人中十一人即ち殆んど一ぷろせんとゝなりました、其他の諸國には尚成蹟が宜しうございます、即ち「ドレスデシ」の婦人科院に於きましては、消毒法實施後千八百八十四年で〇、八「プロセント」即ち千人中八人死んだ譯になります、千八百八十五年には〇、一四「プロセント」となりました、千八百八十七年には〇、〇七「プロセント」千八百九十五年に千四百二十八人の産婦がありました、其中死亡者があつた一人、「ペル

ン」に於きましては消毒法を實施しない前は二、七「プロセント」即ち千人中に二十七人、千八百七十八年から消毒法を行ひまして其年〇、七「プロセント」となりました、千八百八十四年以來今日まで一人も死んだ者はないと申します、實に此消毒法の効能の大なることは著しいものでございます。

是れから又產褥熱豫防のことを申上げます、顯微鏡



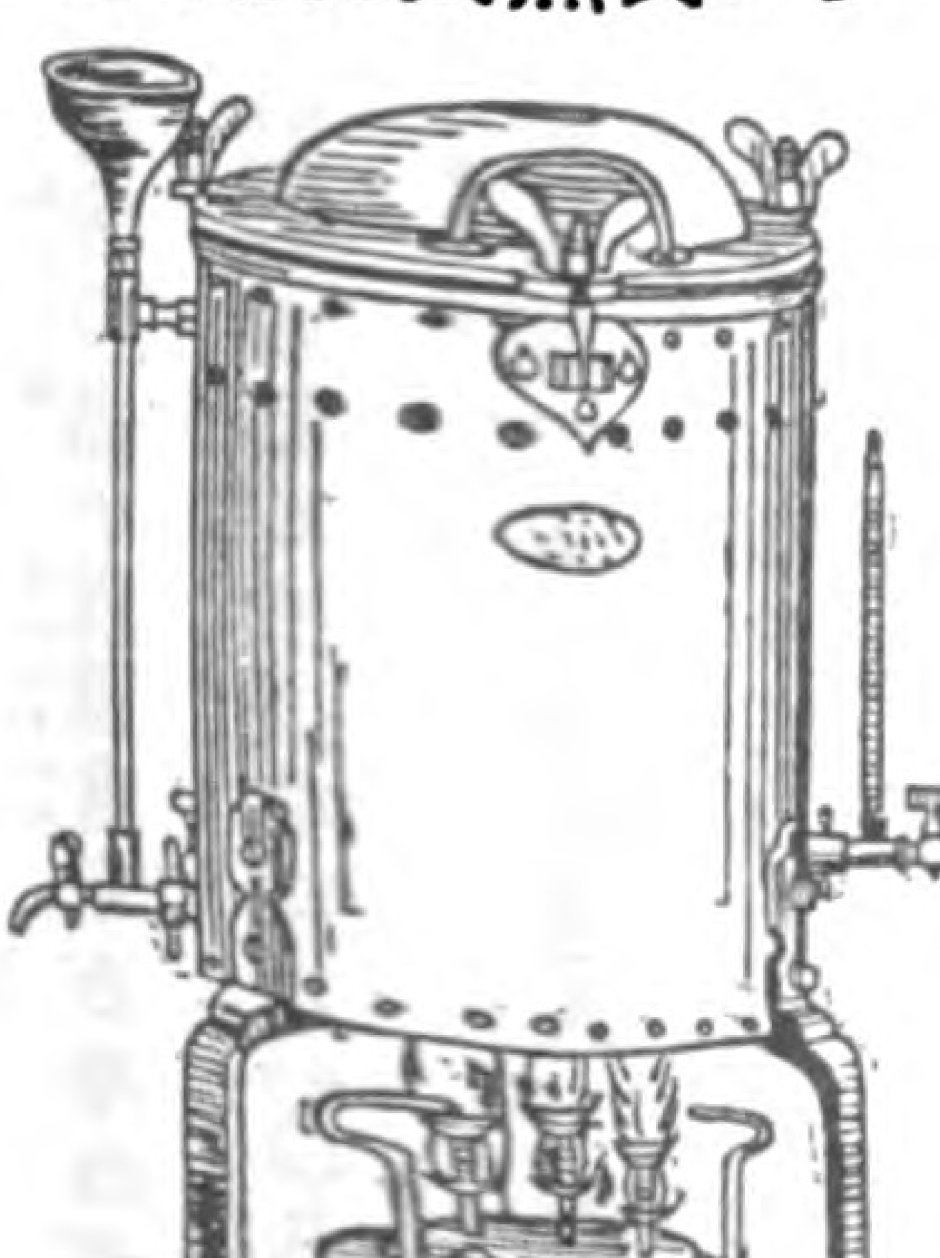
產褥熱ノ原因タル鏈鎖狀球菌

發明以來其御蔭げて產褥熱の黴菌と云ふものを發見されました、即ち鏈鎖狀球菌と云ふ丁度小さな球の形になつて、それが鎖のやうに續いて居るのです、其黴菌が好んで創口より人の身體に這入ります夫れより血液中に達しましたなればそこで熱を起すのでござります、元來妊娠の末になりますると云ふと、生殖器は他に例の無い程充血するものでありまして、其爲に生殖器の組織は柔かになつて居ります、加之ならず出產の期になりますると、大きな傷が出來る外部に見える傷は僅かのやうでありまするが、內部の子宮の中の傷は大きな傷であります、即ち產婦と云ふものは一つの負傷者と見て差支へないのでござります、それでありますから自然に黴菌の這入る門戶を開いてあるも同樣であります、故に產褥熱を豫防するには、此病原たる所の黴菌を此門に近づけないやうにするのが最も良策と存じます、所が其黴菌といふものは何處にも存在するものでありまして、譬へば產婦の手足陰部其他身體外部一面に何處にでもあります、又產婆の手にも醫師の手にも澤山附着いて居ります、實に危險千万のことであります、故に生殖器に近づく所の產婆若くは醫師の手或は綿、

布、器械等に着いて居る所の黴菌をすつかり除き去つてしまはなければ、生殖器へ近づけられない譯てあります、即ち手綿或は器械等の黴菌を取り去り無菌の狀態としなければ近づける譯にいかない、然るに此黴菌と云ふものは只の肉眼では見ることは出來ない、七八百倍の顯微鏡で初めて針の目位にほか見えないのでございます、だから只水で洗つた位ゐでは幾らかは取れませうが後に幾ら殘つて居るか分らない、それを皆殺さなければ無菌の狀態とは言へない、一旦殺した黴菌は再び蕃殖する虞れがないから縱令人身躰內に這入りましても決して毒となりませぬ、其黴菌を殺すに最も有力なる法は何であるかと云ふと熱てす、即ち燒いて仕舞ふとか若くは煮るとか蒸すとかするのを第一の殺菌法と致します、即ち理學的殺菌法てす、併し吾々人間の躰は黴菌を殺す攝氏百度以上の熱には堪へませぬ、それだから已むを得ず第二流の化學的消毒、即ち殺菌藥を用ゐまして手若くは生殖器に着いて居る所の黴菌を殺さなければならぬ、其殺菌藥中最も有力なるは、昇汞水であります、此藥は非常に毒になりますから產科には只手を洗ふ位で餘り用ゐることは出來ませぬ、多くは石炭酸若くは近頃は「リゾール」と云ふ藥を用ひます、綿とか布とか或は器械などは第一流の殺菌法、即ち熱氣の消毒法を用ひまするのが一番確實であります。

（此時講師は殺菌器械を示さる）

テウテンシユレー
ケル氏蒸氣消毒釜



茲に持つて參りましたのは皆樣御承知でもございませうが、是は熱

氣消毒法の器械です、此消毒釜の一番下の所へ瓦斯ランプを點けます、或は酒精ランプ石油ランプでも宜いのです、此鐵製の圓壔の下部には湯が這入つて居りまして、湯が煮えると云ふと内部が二重の筒になつて其上部には細かい孔が澤山空いて其孔から湯氣が出るやうになつて居りまするが、上へ蓋をしてありまするから其間は外へは出られませぬ、中へは一杯攝氏百度以上の蒸氣が溜まります、溜りまするると今の孔からは湯氣を出して、下からはドン／＼蒸氣が這入つて參ります、其蒸氣の籠つて居る中へ消毒しやうと云ふものを入れまするると、蒸氣が非常の熱氣て黴菌を殺して仕舞ふ、そこで此傍に寒暖計が付いて居りますから溫度が分ります、

簡易なる消毒裝置



百度以上に昇りまして三十分も經てば大抵の黴菌は死んでしまふ、そこで之を取り出します其際に濕つて居つては使用に差支へますから、それで又此脇に螺旋があります、其螺旋を捻ると云ふと蒸氣が皆外へ出てしまう、中は熱いからして凡そ二十分も經てば乾いてしまひます、さうすると黴菌は居ない、即ち無菌の狀態となつて醫師などは直ぐに之を用ひまするが、此消毒した所の鑵即ち貯槽に其儘入れて置けば日數が經ちましても黴菌の這入ることはありませぬ。

シュムメルブッシ氏消毒品貯槽



帶環を推送するに依り開孔し蒸氣及熱氣を通過せしめ得べく之を逆戻するにより空氣竄入を遮斷し得へし
此鑵中に消毒品を入れ消毒釜中に置く

それから今一つ申述べたきは產婆を擇ぶ必要でございます、若し產婆が此消毒の心得のない者でありま

したなれば實に危險であります、現今日本の實際に於きましては產婆に色々の階級がある（法律では一に產婆と申しますけれども）私は先づ之を三等に分けたなら宜からうと思ひます、即ち第一は舊來產婆と申しまして舊來から營業をして居ると云ふ廉で、試驗もなくして產婆となつた者、是は隨分澤山あります、第二は未だ消毒と云ふことの行はれない時代の、西洋產婆術を學びまして試驗を受けた者、第三は最近の消毒法を學びましてさうして試驗を受けた者、此三通りに分けます、此中の第一なる舊來產婆は其數最も多い、先づ十分のものなら八分まではさうである、殆んど何萬と云ふ程澤山あります、此產婆は分娩の作用はどう云ふものだとか云ふことは知りませぬ、產婦の產み出すを待つて初めて手を出して小供にお湯を使はせると云ふ位の役を勤めますのみて內診をして內部の模樣を診ることとは知りませぬ、從つて生殖器の內部に黴菌を導き入れると云ふことも少ない譯であります、日本に於きまして比較的產褥熱の少ないのは此の原因であるかと思はれます故に無學は產褥熱に取つて却つて仕合せでございます。第二の產婆、是は最も危險だらうと思ひます、即ち消毒無しの內診をするから產褥熱を起すことも從つて多いやうに思はれます、加之ならず此第二流の產婆は當時最も流行しつゝあるのでございますから、實に寒心しなければなりませぬ、第三は一番良い所の產婆でありますけれども、悲しい哉數が最も少なうございます、漸く全數の百分の一に達するや否やと云ふ位ひです、先づ大學邊りで養成したのは其中でも宜いのですが極く少ない。

彼の有名なる「ナイチンゲール」氏の曰はれたのに、病人の感冒と云ふは看護人の罪であると曰はれましたが、產婦でも同じことでございまして、產婦の產

褥熱に罹るのは之に關はつた所の産婆の罪である、故に學識ある所の善良の産婆は必ず産褥熱を起させるやうなことはしないのであります。

世間一般産婆を擇ぶのを見て居りまするのに、何れも流行して居ります産婆を頼むやうであります、其譯は流行して居る産婆は多く實地を踏んで居ると云ふことで至極尤ものやうでございまするが、消毒の點から見ますると云ふと贊成が出來ない、何となれば彼の流行産婆も人間なれば晝夜（殊に夜分）奔走して業を執つて居りますから、從つて疲勞し爲めに消毒に對する必要の注意なども缺けるやうなことを往々見受けます、其他多くの産婆を取扱ひますから、從つて産後の婦人即ち褥婦に接近することも多い譯であります、所が健康の褥婦の帶下でも、其中には多數の産褥熱の黴菌を含んで居りますから、之を取扱つて居る中に多少附いて來る、それが新らしい産婦の生殖器に這入りますると忽ち有毒の作用を起して、其新産婦は産褥熱に罹ります、云ひ替れば流行する産婆は有毒なる物質に觸るゝことが多いから、從つて危險が多い譯でございます、それから注意するのは傳染病中で猩紅熱、實扶的利、丹毒其他之に似寄つた所の病人に接近することのあるや否やと云ふことでございます、流行して居る産婆は自然今申しましたやうな病人に接近することも多い、故に産婆を擇ぶには左程忙がはしくない中位の人にして産婆學校に於きまして産褥熱豫防法に付當今の處置を學びました所の、所謂第三の産婆を頼むのが一番宜からうと思ひます、併し其産婆を得るに付て尚確かなことは、平常皆様の御頼み付けの親しい醫師に其撰擇を頼むのが一番宜からうと思ひます。

又産婆を招く時期を誤まらぬ様にせなくてはなりませぬ、甚だしいのは産氣付いて初めて慌てゝ産婆を

頼みに行くことがある、さう云ふ場合でありまするど産婆の良否などを撰ぶ暇がない、又招かれた産婆も消毒を施す暇がなく見す〳〵危險を冒す場合があります、それから産婆はどうしても澤山の産婦を扱ひますから、確かに産褥熱を防がうと思ふには、産婆を少なくとも一週間若くは二三週間前から雇入れて置くのが一番宜しうございます、それから又産後一二日と云ふものは産婦の家に泊めまして、其間は他の姙婦を見舞はせぬと云ふことにして置きます、さうしたら幾らか産褥熱を防ぐことが出來ます、それから産婆には必ず白い清潔なる施術服を着けさせます、殊に産婆の着るのは袖の短かい臂の上で止まつて居る位の短かいのが宜しうございます、(臂から下は消毒が十分に出來る樣)

其他社會一般に彼の劇しい傳染病たる産褥熱は斯う云ふものであると云ふことを知らしめ、或は産科醫をして常に産婆の消毒の善惡を監督させると云ふことを、産褥熱豫防の一端とならうかと思ひます、

又家族の中に創傷傳染病、熱病殊に猩紅熱、實扶的利などがございましたなれば、姙婦は之を看護するなどゝ云ふことは避けねばならぬ、實扶的利などが傳染しまするとと矢張り産褥熱になる、又産に近い姙婦の家に今言ふたやうな病人があつたなれば、早く病院へでも入れるが宜い、さうなければ、斯樣な病人の居る部屋には前に申した聯鎖狀球菌を空氣中に含んで居りまするが故に、さう云ふ病人は入院させて後に嚴しく消毒法を行ひ、それから産をしなければ危險であります、併しさう云ふ所に居るよりは他の家に移つて産をするか安全であります、それから又臨月になつた婦人は前に申上げたやうな病人のある家を見舞ふと云ふことも宜くない、據どころない時は其病人に接近せずして、家族の人に御見舞を

するを云ふやうにした方が宜からうと思ひます、そればかりでなく臨月の妊婦は通例の産褥婦を見舞ふことも宜くない、縦令健康の産褥婦の帶下でも黴菌を含んで居るものでありますから、それが何時か何處かへ付いて來るかも知れない、其位ゐ平常に心掛けて置けは罹ることは少ないでありませう。

それから愈々分娩に近づきましたなれば妊婦の躰を清潔にして、即ち一週間に二三回清潔なる所の微温湯に十五分間位の這入りまして後、半時間位ゐは安靜に臥んで居るといふやうに致します、殊に下帶などは度々取更へまして、又下の方は毎日微温湯で石鹸を付けて洗ふことが肝心ですが之に反して子宮や膣内を洗ふと云ふことは通例にしない方が宜しうございます、何故なれは其洗ふ所の器械が不潔であるとか云ふ爲に、黴菌を内陰部の方へ送る虞れがあります、此れと同し譯で臨月の場合には内陰部へ色々な詰め物などをするも惡うございます、それからお産の前に整へて置くものは、第一熱氣消毒をした所の綿とか布とか云ふもの、其次は幾らも御婦人の方で持つて御出でる方がありますが、「イルレリガートル」と云ふものであります、是は後で御目に掛けます、殊に硝子で出來たか器宜しうございます、第三には彈力性の「カテーテル」と申しまして尿水を取る器械、其次は便器、第五に刷毛、第六番に石炭酸水或は「リゾール」と云ふやうなものを用意して置く、斯う云ふやうなものは皆産婆が持つて來るものでありますけれども、産婆は御承知の通り多人數の産婦若くは褥婦を扱ひますから、自然に黴菌の附着すると云ふことは免かれませぬ、故に出來得る限りは自分用の新らしいのを用ふものが一番宜い、僅か一圓足らずのものでありますから(此時講師は一箇の皮鞄を示さる)是れは近頃産婆の持つて歩るく皮鞄で

ございます、極く消毒法に基づいて拵へたものてございます、外被は「ズック」て内容は金屬の箱て出來て居りまして、少し不潔であるとか危險であると思へば、煮るなり蒸氣消毒なりも出來ます、總て木の函とか皮の函とか云ふものは、不潔の下り物の飛汁が掛つた時に熱氣消毒をすることは出來ない。金屬なれば煮ることも蒸氣消毒も出來ますから金屬が一番宜い、〝斯う云ふ金屬の函にはなつて居ります、（一々器具を示さる）蓋は石炭酸を熔かし、手を洗ふとか器械を消毒することが出來る、容器か不潔ては何にもならないから熱氣消毒か出來るやうになつて居ります、是れは刷毛、此の柄は木なとては不潔のかもの着き易くていけないから金屬、次に是は臍の緒を切る剪刀、昔の產婆は剪刀一本持たつに行き先方て借りました、そこて宜いかと云ふて宜くない、其不潔の剪刀て切ると黴菌か這入り、其爲に澤山ある病氣て小供の破傷風を惹起し痙攣て死んて仕舞ふやうなことがある、此剪刀は接續の所が離れまり、離れませぬと其間に不潔のものが這入ります、次に今申上けた「カテーテル」と云ふものが是れてあります、不潔の器械にて小便を取りますと困難の病氣が起り中々癒らない、所謂消渇と云ふものになる先きは護謨より金の方が宜い、金の方は何かゝ染みませぬから……是は爪を磨く鑢、よく「ホッケット」なとに入れて置きます、それから是は「イルリガートル」と云ふものてす、是は「ニッケル」鍍金になつて居りますから錆ませぬ、先管は硝子てないといけませぬ硝子なと中が能く透いて見えまするし煮ることも出來ます、管は長くないといけませぬ、子宮などを洗ふ時に短かいと汚物が護謨にも手にも着きます、自分の手に着きまするとか護謨に着きまするど、他の產婦にも移り消毒も難かしいから長い方が宜い、自

分用として斯う云ふものが一通り有れば尚ほ宜いてす。

それて今度は產室、產室は餘り狹いと困ります、大抵六疊若くは八疊位の所が極く宜い、又明るくないと困ります、何故と云ふに暗いと自然空氣も惡いし消毒も十分出來ない、それから其部屋は以前に澤山使はない所が宜い、始終其所で煎炊をしたり不潔なものを取扱つた部屋は宜くない、又多人數出入した所も自然病毒が澤山ございますから宜くない、產室の消毒法は壁から柱など通常消毒藥で拭いて置く位のことで宜い、愈々お產が始まりましたなれは、一遍產室の空氣の流通を好くさせまして、それからお產の床を部屋の眞中に置きます、能く壁にくつゝけて置きまするが看護をするにやり惡くい、左右から自由に看護の出來るやうに眞中が宜しい、床は寢臺が一番扱ひ宜うございますが通例の蒲團ても宜しうございます、併し綿の澤山這入つた厚いのは困ります、餘り厚いと躰が埋まつた取扱ひ惡い、其蒲團の上に水の透らない所の護謨布のやうな三尺四方位ゐな蒲團の幅より廣いのを掛け、其上に汚れ物を受ける蒲團を一枚敷きます、是は產褥蒲團と申しまして近來色々な商會から賣捌いて居りまするが、それを能く見ると上皮は脫脂綿て薄く卷いてありまして、中心は何だか黑い打返へしと云ふやうな綿が這入つて居るものを多く見受けますから、斯う云ふものは御自分の家て殺菌した脫脂綿を以て拵へるのが宜い、蒸氣消毒が出來ぬ時は蒲團を拵へ霧を吹いて火熨斗を掛ける、是は呪のやうてすが幾らか殺菌の効があります、それから私は其蒲團を拵へるに綿の代りに藁灰を用ゐたら宜からうと思ひます、御承知の通り灰は最も確實なる所の熱性の殺菌法を施したもので、殊に價も安うございます是は先づ紙

の嚢を拵へ灰を入れ其上を布で包むので、貧民などには殊に調法でございます、それから産室には産婆、看護婦の外には餘計に人を入れないが宜い、大勢這入りますると、自然に不潔になります、其他産室に準備して置くは消毒藥として石炭酸近來は能く「リソール」を用ゐます、獨逸などでは是非産婆に使はせるやうにしてあります、日本などでは漸く明治三十二年かに産婆規則と云ふものが出來ましたが、それには消毒と云ふことは少しも書いてない、西洋には勅令で極まつて犯した者は罰金を取ると云ふやうに嚴重にやつて居ります、今に追々開けて來ますれば日本でも注意するでございませう、石炭酸は大抵三十倍位ゐの強さでそれより弱くては効能がありませぬ「リソール」は百倍でなければ効能はない、効能がないばかりでなく危險であります、それから産婆は手を洗ふ前に殊に短かく爪を切ります、日本人は爪の長い人が多いが西洋人は握手の禮がありますから、殊に短かく切ります——それから今の鋏で爪を磨ります、さうすると目に見えるだけの不潔は去られる譯であります、爪の下は黴菌の隠れ家であります、或人は顯微鏡で爪の垢を檢査した時に黴菌の種類が七十八種ばかりあつたさうです、私が産婆を判斷するに其人の爪を見る、爪が長くて眞黑であるやうな者は消毒もせない者と判斷をする、爪を切らせまして今の刷毛で石鹼を付けまして湯の中で垢を取る、爪ばかりでなく手の垢も手で取るのでは十分に取れませぬから刷毛を使います、それから能く私共が手を洗ふ其湯が熱いと水を持て來て入れることがある、それが誠にいけない水の中には澤山の黴菌が這入つて居ると見なければならぬ、東京の水道にすらある位ゐだから——其水を入れられると黴菌を入れるやうなものになる、水と云ふものは一旦熱し

て百度以上に煮え換つたものは黴菌が死んで居ります、其水を殺菌水と申します、其殺菌水の中でやらなければ効能がない、其殺菌水の中で石鹸及刷毛を以て臂から先きをすつかり洗はせる、洗ふ時には先づ時計を置て五分間位ゐやらせると云ふことに極めて置きます、それでも未だ石鹸が附いて居りますから又別の殺菌水で洗ふ、それから三十倍の石炭酸水が百倍の「リゾール」水の中でもう一遍洗ふ、さうすれば黴菌は居らない居りましても死んで居るから人體に毒にならない、即ち手が無菌の状態になる、併し湯で洗つた上を又酒精で洗ふと尚ほ宜い、何故かと云ふと皮膚には脂肪があるから、酒精で脂肪を取り去つて石炭酸水で洗ふと宜い、産婆の消毒法が終つた後今度は産婦の消毒法に取り掛る、若し出來る場合がございますれば、前に一遍産婦に全身浴をさせて、さうして清潔の着物と着更へさせます、さうして消毒した手で産婦の外生殖器を消毒藥で洗ふ、丁度手を洗つた時と同じやうにする、併し内診はなるべくしない方が宜い、何故なれば此産褥熱と云ふものは多く是等のことから起るのであります、據ない時にはもう一度手を洗ひましてそれから内診をする、手を洗つた後は他の物に觸れないやうにする、内診をしまするには一度で必ず濟むやうにしなければならぬ、中途で蒲團などに觸れますると又毒が附く虞れがあります。

産後は外陰部及其周圍を只消毒藥汁を以て洗ふは宜しきも内陰部を消毒藥で洗うのはいけませぬ、前申上げた所の第二流の産婆の特技として能く膣内を洗ふことがあるが、是は大きな誤てございます、西洋ても數年前までは洗ふことの必要を認めて居りましたけれども近來は悟りまして、別に異常のない時には洗はないやうにして居ります、何故かと申します

と元來內陰部の粘膜の上皮は黴菌に對する抵抗力の强いものでございますけれども、屢々洗ふと藥の爲に剝がれまして抵抗力が弱くなり自然黴菌が其處から這入り易くなります故に通常の塲合には洗はぬが宜しうございます。

それから褥婦は前申上げる通り負傷者と同一でありますから、產婦よりは一層淸潔に注意しなければならぬ、即ち陰部の處へ直接に當てる綿、布などは、蒸氣殺菌をした所の物を用ひなければならぬ、(通常の脫脂綿と云ふものは少しも消毒の効はない)、其上より通常の綿を用ふるも良しそれで一日に二回消毒藥を以て外陰部を洗ふ、其洗ふにはお產の時に洗ふやうに手を消毒してからする、それからもう一つ氣を付けるのは、褥婦は生殖器若くは其邊へ自分の手を觸れないやうにして置く、其黴菌の付いた手などが乳房に觸れると、乳腺炎を起して膿むやうなことがある、是は產後一週間とか九日產婆が全躰世話をして呉れる間は宜しうございますが、自分でやる時には注意して嚴重に消毒をしないと往々今のやうなことが起る、それから產婦は產後二十四時間は靜かに仰向けに寢かして置くが宜い、横などになると生殖器の傷が癒らない、併し二十四時間以後になりますれば靜かに横に寢かしても宜しい又坐りましたり立つことは九日後でなければ宜くない、早く離床すれば時として褥熱を起す事があります、即ち身躰を動かせし爲め一旦癒合しかけし創が再び破れ其傷から四五日後の帶下の黴菌が身躰に這入りまして產褥熱を起すことがある、之れは健康なる褥婦の帶下にても產後三四日位より有毒なる黴菌を混ずるからであります併し產後翌日位るになりますれば靜かに横に寢かす位は差支ない、

先づ是れが產褥熱の消毒に就ての御話でございます

が、終りに望みまして今一つ本會々員の如き社會の慈善家に希望したいことがある、それは他でもございませぬが下等社會の貧民に於きましては、縱令消毒の効用を知りましても費用と云ふものがなく、實施することは困難でございますからして、知らず識らず死地に陷ると云ふやうな憫然のことがある、貴婦人令孃方は御存じはございますまいが、私共の職業として極く貧家に行きますると、隨分皆様の像想外のことがあります、最も下等の所謂棟割長家等に行きまするとお産をする場所がない、押入れを開けて其中で産をするやうなことがあります、どうも取扱ひ惡い、少し立つと頭を打つ、さうかうして手を洗はうと思つても金盥がない、水の盥も長家中に一つか二つしかないと云ふやうなことである、産婦が苦みまするど長家中の者が手助けに來て、唯騷いで居るばかりで中々消毒などは出來ない、さう云ふ所へ行く産婆は大抵自腹を切つて皆消毒藥を持出して居る、さう云ふのが多數ありますると、産婦の如き微力な者では遣り切れないで、知らず識らず不潔の取扱ひをするです、獨逸などには産褥用の「ワンデルコルブ」と云ふものがある「ワンデルコルブ」と云ふは遍歷する函と云ふ義であります、其箱の中には産褥婦に入用の清潔なる品物が這入つて居る、それを貧民の家へ貸して遣る、順々に其箱が方々廻り歩くやうになつて居る、是は獨逸の貴婦人會に準備してあつて、さう云ふ所へ貸して遣ることになつて居ります、其衞生的又慈善的の良い制度と云ふものは羨しいやうに出來て居る、其「ワレデルコルブ」と云ふものは甲乙の二通りありまして、出産の時に使るのと産後に使ふものと分けてあります、其中には色々手拭だとか石鹸だとか藥だとか云ふものを入れて置きます、又産褥中の疾病豫防法を書いた心得

眷も這入つて居ります、其中使つてなくなるものもありまするが、返つて來ると手拭などは消毒して又他へ廻すと云ふやうになつて居ります、デ其返つて來たのを洗濯したり消毒するに八日位ゐ日數が掛かる、それから産褥婦の所に置くのが十日間位である、それであるから一箇の「ワンデルマルプ」があると一年間に産褥婦二十人の用に立ち、十箇ありまするならば二百人位の用に立つ、總て物事の改良進歩と云ふことは筆で書きましたり口で喋々するも世間を益することは少くない、所謂百言は一行に若かずで、斯樣な慈善的の事業をしましたならば、社會の人の助かることは隨分澤山のとだらうと思ひますから、是等のことは貴婦人方の御賛成を得て成べく實行したいと思ひます、今日は先づ是れだけて御免を蒙ります。

（完）

本演說中添加挿入すべきケ所あり餘白なきを以て[illegible]の末尾に附加す

日本に於ける婦人教育

此篇は某所に於けるベルツ氏の演說にして衛生上參考となるべきものなれば大日本女學會より申受しもの也

博士　イーベルツ演說

伊藤重吉演譯

外國人である上、男子に屬して居る所の私が、日本の御婦人方に對し『日本に於ける婦人教育』と云ふ如き問題に就き、お話をする事は、極めて大膽な事柄であるのは、能く承知致して居るのみならず、是は餘程困難である事も亦存じて居るので御座います。併しながら、私は長らくの間斯の國に住居し、總ての階級に屬したる種々な年齡の御婦人に接して、其お方々の御樣子を觀察する機會を得た上に、日本の改革者が有するより長く、西洋諸國に於ける教育に就ても觀察する便宜を得ましたので、約言すれば、種々なる教育に就き智育、體育、德育の模樣及び其結果を觀察した事であるから、今日此の問題をお話するのは、啻に正當なるのみならず、私の爲すべき

本分であると思ひまする。日本に於ける婦人の教育を改良しなければならんと云ふ事は、明治の初めから疾く起ッた考へであって、其時分より今日に至る迄、多くの改良が行はれて來ました。けれ共其改良に就て、尚又改良を要すると云ふ意見を唱へられる所を觀れば、前の改良はまた總ての人を滿足せしむる事が出來なかッたのは事實であると思ひます。併しながら、婦人教育の如く一國に取ッて最も大切なる問題に對し、西洋諸國に行はれたる教育制度を採用しやうと思ふならば、先づ其前に餘程注意して、利害得失を考へなければなりません、即ち東西に於ける教育制度の得失を考へ比較して、利害を明かにする事が必要であります。然るに不幸にして、東西の教育智識を比較して判斷を下すに足る丈の充分なる智識と、經驗とを有する人がまだ至ッて少いのであります。歐羅巴や亞米利加などから歸ッて、教育改良熱の非常に熾んな人々は如何であるかと云ふに、比較的年が若くて、日本の教育を充分得ない人々が多う御座います。或は是等の人々は、假令教育を受けたとしても、高等教育中の高等教育、即ち眞正の高等教育を受けない人々が多いのである。之に反して、年齢の大いなる人、即ち日本教育を充分に受けた改革者は、如何なる者かと云へば、是等の人々は自然西洋教育を受けないから、東西の教育を比較するに當り、反對の意見があッて、往々誤謬に陥り易いのであります。故に此の中庸を得て、東西の教育を比較する事の出來る人が少いので、是は斯の國に於て十五年以前に婦人教育が行はれた時、自然激しき衝突を起した理由であります、當時は洋服を着けた人々の集る處は、多く男女共舞踏の爲に狂奔する社會であッて、東京には外部の裝飾に無頓着な男らしきお轉婆の婦人が充ち滿ちて居りました。從ッて其れに對する反對が自然起りまして、餘り過ぎる位往昔の教育制度に立ち返りましたが、現今は又此の振子が他の方に向ッて動き始めて居るので御座います。

今此の問題を述べる前に、敎育の目的と云ふ者は如何なる事であるか、先づ一番に之を明に仕なければならんと思ふ。私の考へでは敎育の目的は今から成人する人々、即ち若き人々に將來進む所の敎育に對し、必要なる智識の分子を得しむるのが大切であると考へます。若も此の目的に就て申した言が誤らぬとすれば、先づ現今の日本の風を考へて敎育を施さなければならん、即ち日本に於ける家庭の狀況社會の狀況及び其一分子たる婦人の有樣が、西洋諸國に於ける社會及び家庭の狀況と違ッて居るとすれば、其勢も亦異ッて居らなければならん道理である。例へば近來亞米利加に於て敎育せられた人は、日本婦人として適當なる者になる事は難いので、其れは宛然日本に於て純粹なる日本敎育を受けた人が、亞米利加の社會には不適當であると同じ譯です、若し又最も能く適當した者があるとしても、其れは無論畑に生えた植物の如きもので御座いませう。或は敎育と云ふ者は社會を變へる事が出來ると論じる人もある、けれ共是は誤謬であります。社會が人々を敎育するので、敎師が社會其者を敎育する事は出來ません。併し學校で敎へる敎育が詰り社會を感化し得るに違ひない、けれ共其感化は至ッて遲く、漸々に起るべき者であッて、直接には社會が人々を敎育するが、敎師が社會を敎育する事は出來ません。故に敎育に從事する人々は能く世の狀態を考へなければならんが、併し將來の事迄察して、子女を敎育する譯には行かないので、敎育家は、決して空中に樓閣を描く權利は有ッて居りません。尤も敎育や智識は新らしい方法を擇へれば、容易く更へる事も出來ませうが、社會は容易く改める事が出來ない。其れで敎育を受ける人々が住ッて居る社會の狀況と大に違ッて、平均を保つ事能はざる如き敎育を施されるならば、彼等の爲に決して幸福とならず、却ッて禍となるのみか、恐るべき害毒を社會に流すの基礎となるであります。故に若き人々を敎育すると共に、其社會の多數を占むる者の理想を支配

して居る根本的思想を考へ、其れと離れぬ樣に注意しなければなりません。

是から本論に入るに先ちて、少し躰育の事を申さうと思ひます。過ぐる十年程の間に於て、日本婦人の躰育は著く進歩して來ましたが、併しながら餘り勉强せらるゝ爲に眼を損ひ、躰を害ふ方々が澤山あります。一躰日本の女子は男子と同樣に不適當なる勉强を好む癖があッて、休むべき時にも猶休まず勉强に耽るから、詰り身躰を損ひます。故に其父母たり敎師たる人は、斯の點に深く注意を與へなければなりません。何故かと云へば、婦人が其身躰に一つの更りが起る時代、即ち最も大切なる時期には、血の循環をよくし、新鮮なる空氣を得るの必要がある。然るに坐ッて好きな勉强計りするのは、非常な害である事を、若い女子は知る事が出來ませんから、父母や敎師が注意を與へる必要があるので御座います。殊に上流社會に於ては、舞踏とか、遊技とかの如き運動が最も必要なる時代に、之を止める者が多いのは、誠に悲むべき事ですが、併しながら、今日はロンテニスの如き、其他學校の運動及びファイトレー、エキサイスの器械を用ゐる事などが、大に進んで居るのは見るべき事である。自轉車は果して之れが日本婦人に適當せるや否や疑はしい事である。海水浴も隨分盛んに行はれます、けれ共水中を游ぐのと、只水中に坐ッて居るのとは大なる違ひで、游ぐ方は實に肝腎な運動であるが、大磯の如く夏期に澤山人の來る處は、充分海水浴をするに適當して居りません。併し鎌倉や逗子などは海水浴に適した場所で、其外にもまだ斯樣な處は澤山あらうと思ひます。

次に日本婦人が下駄や草履を穿く間は、歩行を樂む事が出來ないから、成るべく靴を穿く樣に致したい。併しながら若し靴を穿くとすれば、足を外側に向けて歩く樣に注意しなければならん。靴を穿きながら足を内側に向けて歩くのは、宛然下駄を穿いて外側に歩くのと同じ事であります。併しながら孃達に斯

く二樣の歩き方をさせるのは不自由かも知ないが、是は男子が役所に行く時は洋服を着、宅に歸れば日本服に更へるのと同じ事であるから、ドウも仕方が御座いません。又歩行は最も簡易なる運動の方法です。然るに日本の婦人方は、之がドレ程精神上や身躰上に効能が多いかを辨へて居られないかと思はれます。或は日光、箱根等の如き處に避暑せらるゝ方々を觀るに、外國人は老若男女の別なく、或は山に登り、或は舟を漕ぎ、或は水を游ぐにも拘らず、日本の御婦人方は多く座敷に坐り、其れで滿足してお出になる樣子であるが、偶々運動なさる人々も、朝夕一時間に十五六丁位の速力を以て御歩行になれば宜いとして居られる樣であるが、何卒若い人々が避暑する時には、成るべく歩行して、充分利益を得られん事を望みます。而して其歩む際には、無論編上げ靴を穿く事が恰好で御座いませう。又身躰の運動に就ては、手足の充分動く樣な便利の衣服をお用ゐになるが宜い。此の衣服に就ては以前日本婦人の服裝に就きお話した事があるから、其れを參照して戴きたう御座います。斯樣に躰育は大切な者で、教育上主なる場處を占めなければならんが、尚進んで普通に用ゐられる智育、徳育に對してもお話致さうと思ひます。けれ共、其れを申すに就ては先づ二三の事を云ひたいと考へるから、何卒之を述べるお許可を願ひまする。

歐羅巴大陸に於きましては、婦人に高等教育を施す事が事實上反對であると云ふ說が世間に傳ッて居りますが、是は大なる間違で、獨逸の如きは英國に於けるよりも、婦人教育に就き殊に自由なる意見を有ッて居ると云ふも宜いと思ふ。英國の如きは從來大學に女子を入れる事は許さなかッたので、近頃聞く所に依れば、或る病院に於いて一個の婦人を採用した爲め、醫者が辭職したさうである、所が獨逸の伯林では、現に三百の女學生が大學の講筵に列した事もあり、或は一個の婦人が大學の化學室に勤めて居た事も御座いましたし、又近來は大學に一個の婦人

が國家經濟學の論文を出した爲め、最も高貴なる賞譽を得たさうで御座います。尤も伯林に於いては、年々女子の學問をする者が殖えて居るのを見ても、歐洲大陸では婦人の高等教育に反對すると云ふのは誤謬である事が知れませう。又私一個に就て申せぜ、東京大學の醫會に於いて、婦人に醫學の研究を充分させる樣に贊成した者は、私一人であッた事をお聽きになるも略々自分の意見をお察しになる事が出來ませう。併しながら高等專門教育に適當なる教育を、總ての婦人に施すのが宜いと云ふ事は大に間違ッて居る。固より婦人でも或る特別の境遇に在る者は、生活の爲に高等教育を受ける必要がございませう。けれ共一般の婦人は一家の主婦となッて家族の生活を爲すべき者であるから、一方に於いて高等專門學者が出來ると共に、他の一方に於いては家族となるべき婦人を造らなければならんから、深く此の點に注意して戴きたいので御座います。其れで婦人に高等教育を施した歷史を考へて眺るに、今日より百五十年程以前は、婦人高等學校の設けはなかッた、けれ共其時分の婦人が、今日よりも果して不幸であッたか其處は疑はしいが、自身は滿足して居たのである。然るに近來物質上の文明が進むに從ッて社會の有樣が變ッて來た、即ち蒸汽機關が廣まるに從ッて田舍も町も接く樣になり、交通が頻繁になッて富の度が增すと共に、個人の名譽心が高くなッて來たのと、女子の數が男子よりも非常に殖えたのとに因て、婦人高等教育の必要が起ッて來たので御座います。

歐羅巴の東の方及び亞細亞に於きましては、女子の數が男子に超過しては居らないが、歐羅巴の西の方即ち「ニュウ、イングランド」「マッサチューセッツ」の如きは、女子の數が大層多いのである。又英國は男子に比して婦人が六十万多く、「アイルランド」と「スコットランド」を合すれば超過の數が九十萬にして、獨逸は百萬人も女子の方が多くなッて居ります。而して一方からは男子の結婚が以前よりも遲くなッた

爲に、生活の必要に迫られ、從ッて女子も高等教育を受けなければならぬ樣になッたので、詰り婦人の高等教育は學理上から興ッたのでなく、必要に逼られて來た者であるから、社會の進步に先立ずして、其後に伴うので御座います。

斯樣な有樣てあるから、婦人が高等教育を受けた結果は如何てありませうが、成程活潑壯快にして、克己の精神に富める亞米利加の高等教育を受けた婦人方は、人間中最も美はしき標本てあらう。けれ共其人々が斯かる教育を受けた代價として、拂ッたのは如何なる者てあるかと云ふ事を考へなければ、事柄の眞相を知る事は出來ません。或人は亞米利加の高等教育は完全に進んで居るから、如何に難しい勉强をしても、婦人の身體を損ふ氣遣はないと云ひますが、此の點に就き正確に判斷を下す人々の意見を聽くに、クラーク大學の校長は「今日の婦人教育は有害なり」と云ひ、婦人の醫者として大家なるウェアーミッチェルは「高等教育を受けた婦人は母となるに適せぬ」と云ッて居る。又センチュリオンユニオンと云ふ人も「高等教育を受けた人々の身體は、他の婦人に比して體質が弱く、若し一人の子が出來れば、非常に衰弱する」と云ッて居ります。或は「高等教育を受けた女子の有樣は、宛然神經の塊りである」とも云ふ樣な者て、斯かる教育を受けた人が半途に至れば、他の婦人よりも大に體質が衰弱して來るさうです。

尙英國に於ける一個の婦人醫者アラベラケニィルの書いた面白い事實が御座います。其れは兩人の婦人があッて、立派な子供を造る事を豫期して居ッた、所が一方の婦人は容貌も立派で、大學を卒業したから總ての學術に達して居る人であッた、而して其婦人は、吾が思ッた通りの理想の子供を儲ける積りで、母たる資格に必要なる事を生理學上から研究し、スープを飲んだり、肉を食べたりした上、獵に出たり、馬に乘ッたりして身體の健康を保ち、唯其目的を達し樣と期して居りました。モウ一方の婦人は、極く

靜かな内氣な人で、美術上の思想には富んで居たが、恰度ミッスベーコンが書かれた、日本婦人の如き性質を有ッて居た方で御座いました。斯の兩婦人が互に善い子を得たいと思ッた。然るに一方の才色共に勝れた上、躰格も智識も完全なる婦人に依て生れた子供は、弱く愚鈍でおッたが、今一個の婦人の子供は、精神に於いても、身躰に於いても申分なく、普通の者より勝れた居ッた。乃て私は、身躰も智識も充分發達した方の婦人は、吾が身の爲に總ての精力を使ひ盡したから、生れる子供に之を分け與へる事が出來なかッたのである。然るに一方の婦人は、自分の身躰を發達させる事が出來ぬ爲め、其精力に餘分があるから、其れを生れる子供に分け與へた結果が現はれたのであると考へます。何故斯樣な事を私が貴婦人方に申上るかと云へば、日本の婦人方は立派な教育の方面計りを聴いて居られるが、併し女子教育には酷な方面のある事を御存知ないから、之をお知らせ申したい故で、且又此の完全に發達したる教育制度に反對する者は、醫者と教育に關係したる人々である所は、殊に諸君が御注意あるべき特質で御座います。

前に歐羅巴諸國に於る婦人超過の數を申上げましたが、扨日本の有樣は如何であるかと云ふに、斯の國では男子の數が婦人よりも五十萬も多い上に、西洋諸國よりも早く結婚致しますから、日本の婦人方は必ず奥樣になる事が出來るので御座います。故に西洋では婦人の數と男子の數とが權衡を得ぬ所から、己むを得ずして高等教育を受けさせるに至ッた樣な理由が日本には御座いません。其れから日本と西洋とは社會の組織が大に異ッて居ります、即ち西洋の社會組織は個人的であるが、日本のは家族的である、故に餘程高き家の主人でも、家族と相談して事をするのであるから、況して婦人の身では自分の自由にして行く事は到底出來ません。

斯く家族制度の行はれて居る日本の社會に、強き個

人主義を吹込めば、唯り其敎育を受けた者が困難するのみならず、禍を起す基になります。又婦人が權利とか獨立とか云ふ事を敎へられながら、結婚後は何ても長者に從はなければならんと云はれるのは、恰も立派な處を見せて置いて、此の中に入る事はならんと禁じられるのと同樣て御座います。日本に於る舊昔の婦人敎育は、多くの義務を說き、習慣や儀式を敎へて僅少の權利を知らせた者です。是は婦人に取ッて甚だ困難な樣であるが、併し或る婦人に聞くと、日本婦人の道德を保つには、之が大なる助けになッて居ッたさうです。何故なれば婦人は必ず斯うでなければならんとなッて居るから、自らも之を義務と思ひ、他の人々も認るので、忌憚躊躇する所なく行う事が出來たので御座います。而して斯る敎育は單に屈從する婦人たらしむるのみであッたかと云へば、日本に於る封建時代の歷史の中には、中々華々しき女丈夫の行があッて、總ての人が賞讃して居る所を見れば、決して只屈從的計りに敎へた者ては御座いません。吾々が「相互に生活し、服從しなければならん」と云ふ事を申すが、日本古來の婦人敎育は則ち其れてあります。故に私は尙此の事に就てお話仕樣と思ふ。

日本の敎育が斯の國の婦人に適當なる事は、西洋の敎育主義を以て日本に來た所のミッスベーコンが、斯の國の敎育を此の婦人に適當と視て、將來西洋の敎育を日本婦人に施せば、從來よりも一層惡結果が起ると考へ、遂に自分の目的を更めたのを睹ても明に知られます。其れてベーコンは、「日本の婦人に高等敎育を受けさせるは、恰も毒水を飲ましむる如き者て、之が爲に却て自ら幸福を變じ、不幸に陷る樣になる」とまで申して居ります。

只今お話した事の外に、尙一層有力なる例を擧げますれば、長い間亞米利加に留學して歸ッた方々の行を御覽になッた人には分りませうが、是等の方が日本に歸ッて來ると、直ぐ西洋流義の敎育を主張して、自分の子供も然うされるてあらうと思はれるのに、

事實は之れに反して、十年前に日本人がした事よりも、モット古風な教育を其子女に與へて居らるゝので御座います。一躰海外に留學する位な方々は金力もあるから、西洋人の乳母を雇ふ事も出來樣し、西洋人の社會に入れて教育を受けさせる事も出來ませう。所が其れをせずして却て古風に敎へらるゝのを見れば、吾が子に對し其方が幸福であると思はれる明かな證據で御座います。

又或る方は高等婦人教育に大層熱心ですが、其の人が私に向ッて「實際高等教育を受けた婦人は妻たらしむるに好ましくない」と話された事があります。妻たらしむるに好ましくないとは、日本の高等婦人教育の是非を定める言である、何となれば、日本婦人の目的は妻となるに在るからです。斯の國に於ては人の妻とならずに居る者を他の人々が善く思はない、然るに結婚の難い樣な教育を施す事は、日本婦人の爲に宜くありません。

又或る人々は日本婦人を西洋婦人と比較して、道德を維持する爲に教育しなければならんと云ふ說もある。けれ共日本の上流社會に於る婦人の德操の堅固なる事は、實に賞讃すべきものである。併し今一つ必要なる點は氣質を丈夫にする、即ちストロング、キャラクターと云ふ事で――是は甚だ飜譯するのが難しい言ですが、キャラクターとは精神を堅固にする事であります。其れで今日の婦人方には斯の精神が缺けて居るから、何卒今少し之をお養ひになる事を望みまする。

是れから日本の御婦人方の、將來の地位に就て考へて見たいと思ひますが、其れは却て前に申したミッスベーコンの言に依てお話した方が有益でありませうが、兎に角日本では、上流社會の婦人の地位よりも下等社會の婦人の地位の方が、男子と比較して高いと云ふのは實に愕くべき事であります。ミッスベーコンの書いた書の中に、「農夫や職人の妻は、貴夫人よりも夫に對して地位が高い」と書いて御座います。何故と云ふに、下等社會の者は夫を助けて種々の仕

事をするから、夫も亦之を待つ事が厚いのである。乃て其婦人は、法律上權利を得る事が出來ず共、實際上の權利を自ら取るに躊躇しないから、下等社會の者は上流社會より高いので御座います。併しながら今後は上流社會の夫人方にも、大なる改良が行はれませう、私は何卒早く然うあらん事を望みます。けれ共是は婦人を敎育するよりも、男子の方を敎育するのが適當であると思ひます。今より後十年か二十年後に、貴族の子弟の歐羅巴に往かれた方が、日本に歸ッて來られた時に、婦人に對して如何なる待遇と注意とを與へられるかは、私共の注目する所て御座います。併しながら假令西洋から歸ッた人ても、日本の婦人が西洋流義に化する事は好みませんが、まだ其間は進歩が遲う御座いませう。けれ共婦人方は之に滿足しなければならず、又社會の先導者たる婦人達は、自ら安穩に立たれる迄、靜に忍んで時を待たなければならん。願ふに男子の弱を助ける精神を以て之を實行仕樣と思はぬ中は、婦人自ら進んで爲さんとするも、良結果を見る事は出來ません、

又或人は婦人に德が高ければ、自然男子をして尊敬せしむる事が出來、從ッて適當なる地位を得られると申しますが、私は然樣に德の高い婦人は、斯の國に於て適當なる夫を見出す事は出來んと云ふに躊躇致しません、私は知ッて居る日本男子に就てお話すれば、吾が妻には仕たい樣にさせて置くが、併し又自分も外に出ると好きな事計りして居るから、詰り妻たる者は鳥渡滿足して居ても、本統に幸福を得たとは謂はれませんが、兎に角今日は婦人の地位が漸々進んで、以前より更ッて行く事は事實です、私は決して婦人の敎育に反對するのでは御座いません。けれ共將來婦人敎育の程度を進めるに當ッては、社會が其進めんとする程度に比較して、適當な場合に達して居るか居らんかを考へる事が、最も大切であると思ひます。其れて社會の多數の人々が種々非難するが、今日迄多くの進歩を起した文部省の事業に

對しては、深く感謝しなければならんと思ひます。」

私は日本の御婦人方に、西洋の如き所謂大學的の高等敎育を與へる事は、宜いか惡いか疑ふ所で御座います。固より日本主義、即ち往昔の氣風を帶びたる女大學的の高等敎育ならば宜からうが、其れては現今に於る日本社會の智識に應じません。けれ共家族主義に逆ふ樣な强き個人主義、又は自ら權利を尊ぶ自尊主義を婦人敎育に入るれば、大なる不幸の結果を來すに違ひないと思ひます。

私は又日本の女學生に對しては、寄宿舍制度も宜いか惡いか疑ひまする。何となれば寄宿舍に居る時は、母の感化を離れて學校の朋友と計り生活するから、母と娘との關係が遠くなッて來ます。其れて結婚すると一家の內には爲すべき事が多い結果、充分敎へを受ける事も出來ぬ上に、古風な舅姑に事へる困難が起るから、寄宿舍制度は如何はしき者てあると思ふので御座います。

尚上流社會の方々に對する一ッの注意は、家を治め、子供を敎育するの勞を執る事は、若き婦人の務めとして、決して卑くない事を能く其令孃方に敎へるのが必要であると云ふ事てある。一躰日本に於る上流社會の家庭ては、子女の敎育、一家の支配を多くの婢僕に委ねて、自ら關係しないから、殆ど三分の一位も不用な者を使ッて居る。けれ共比較的に西洋の母の勢力よりも、日本の母の勢力は子供に對して薄いと思ひます。故に今後婦人方の地位を高めるには、大學の如き高等敎育を授けるよりも、寧ろ婦人が親ら家政を執り、子女敎育をする方が、夫に對し、家族に對して地位が高まるてあらうと思ひます。

私が只今迄お話した事を結論すれば、敎育は何れの國に於ても、其目的と社會の狀况とに適合する者でなければならん。濫りに人々の才智を進めましても、其れを應用すべき餘地、即ち社會がなければ、敎育を受けた者に不滿足を受けさせる基となり、結局男子に於ては壯士の如き者、婦人に於ては虛無黨

の如き者を起すでありませう。教育は又其時代よりも、幾分か進んだものを施すと共に、社會の大多數を占めて居る先覺や、長老の有樣と權衡を失ふ樣な事のない樣に注意しなければならん。私の考へる所に依れば、今日の日本に於る婦人教育は、能く日本社會の程度に適したる者であるから、是より進める事は危險であると思ふ。若しも日本の社會と家庭の組織とが將來西洋の如くになり、日本の人の人生に對する考へが西洋の樣になつた時に、私は斯の國に西洋の如き高等婦人教育を施す事に對し、熱心なる贊成論者になりたいと思ひまする。



宇都宮支會講演

「トラホーム」豫防法

大日本婦人衞生會宇都宮支會に於て　青柳一郎講述

「トラホーム」は衞生未開の邦國殊に本邦には非常に多く發生する恐るべき傳染性の眼病にして其初めより慢性症として起るときは啻、久時、眼に眊みを覺ゆるの他敢て異常の痛苦を自覺せさるが故に多くは深く意に介せす病初に適當の治療を怠り完全治癒すべき時期を失ふ者比々皆然り故に一たび本病に罹れば經過非常に長く數年若くは數十年に亘り尙且つ治せさる者あり蓋し本病の爲め失明の不幸に陷る者少なしと雖ども病苦の永久治せさるか爲め患者は業務に從事する能はす故に若し一家の生計を維持し經營すべき人にして本病に罹れば家運の衰頽を招き國民の多數が本病に罹れば國家の生產力を減し活潑なる

勇氣と働作を失ひ國家の貧弱を來たすに至る恐るべく惡むべき眼病なり

「トラホーム」は社會の上下を問はず發生すれとも概して金殿玉樓に住する中流以上の者に少く空氣の流通不良にして狹隘なる汚室に多人數群居する下流の貧民に多き者なれば之を豫防し撲滅すると最も困難なり然れとも

慈善事業を起して貧民の生活法を改善し彼等に本病の恐るべき者なるを知らしむるは本病の撲滅及豫防上最も有力なる方法の一也蓋し下流の貧民間に本病の傳染する儘に放任せしむるは上流社會の人に何時傳染するや豫め知るべからざるの危險あり彼の大厦高樓に隣接する九尺二間の貧家に火を失するときは高樓も共に祝融の災を免れ能はざるが如し彼のステッファン氏は初生兒膿漏眼豫防法の條下に述べて曰く世人は盲目者に對しては爭つて淨財を喜捨し育養の道を講すれども施療救濟上のとに關しては毫も顧みず之れ誤れるの甚たしき者にして其盲目となるべき本病者を救ふは既に盲目となりし人を救ふと一般吾人同胞當然の義務なり殊に況んや既に盲せし者を救ふよりは今將に盲せんとする者を救はゞ社會に對し甚た有益なるおや貧にして治療を受くる能はざる者には宜しく公費を以て治療せしむるの方法を講すべしと余は「トラホーム」の豫防に就ても亦氏の言を實にせられんとを希望して止まざるなり

又本病の豫防を完全にし之を根本より撲滅せんには政府に於ても公衆衛生を發達せしめ適當の方針を取られんとを希望す但し本日余は本會に於ては個人衛生即ち各個人が「トラホーム」病に對して豫防すべき方法のみを述ぶるとゝすべし

(甲)各自豫防に就て健康者の爲すべき方法

健康者は左の要領に準據し勉めて「トラホーム」の病魔に襲はれざる樣深く注意すべし

(一)家屋は空氣の流通と採光を充分にし塵埃の揚らさる樣毎日清潔に室內を掃除し炊烟の室內に籠らさ

る樣西洋竈を設くべし且つ鳥小屋及厩等は必す人の住居せさる所則ち別棟に設くべし

(二)健康者は飲食睡眠を適度にし光線の充分なる所に於て業務を執るべく若し塵埃の飛揚する業務に從事するときは防護眼鏡を用ゆべし

(三)健康者は衣服其他の器具を淸潔にし爪は常に短く剪り不潔物の附着せさる樣注意すべく若し指尖を眼に觸れんと欲するときは必す先つ之を洗ひ淸潔なる手拭にて拭ふたる後に於てすべしフェルステル氏曰く不潔が本病の原因たるを實地に知らんと欲せば盛裝せる貴女に其「ハンカチーフ」を見せよと望め彼女之を出すを憚るが如き狀あるは之れ其手巾の不潔なる徵なり若し手巾淸潔なれば彼女の指爪を見よ必ずや伸びて汚垢の塡充するならん之れ其適例なりと

(四)狹隘なる室内に多人數の群居するの避く可し殊に彼の小兒の集合遊戯は郊外にだてするも傳染の危險あるを以て保護者たる者は大に注意すへし

(五)乳母雇人は先つ醫士に「トラホーム」の有無を檢査せしめたる後に雇入れの許否を決すべし

(六)結膜充血、血眼、爛眼痃癖眼に罹る者は速に治療を加ふ可し之を放置すれば忽ち「トラホーム」に變するの恐れあるのみならす或は現に「トラホーム」なる者あり宜しく注意すべし

(六)便所の傍らに水を盤中に貯へ手拭を吊るし置き多人數共同に之を使用するは宜しからず故に手洗水は龍吐口より用に望んで落つる樣にし手拭は必す各自に携帶するとすべし

(八)健康者は「トラホーム」患者に接近すべからず又患者の使用せし手拭其他の器具に觸る可からず若し家族中に「トラホーム」に罹る者あるときは速かに醫治を加へしむ可し

(乙)「トラホーム」に罹れる患者の爲すべき豫防法

「トラホーム」に罹りたる者は單に自己の病苦を免るゝ爲めのみならず又德義上にも他人に傳染するを防ぐ爲め勉めて其攝生を嚴にし充分に治療を加へ速

かに病根を去らしむ可し

（い）「トラホーム」患者は健康者と同居するも互に能く注意すれば其感染を防ぎ得る者なれば敢て隔離別居するの要なし然るに世間往々彼の八種傳染病に準し殆んと同一に取扱はんことを主張する者あるは大早計のことと云ふ可し（瘋眼は必す別居せしむべし）若し心に安んぜさる患者及家族は眼脂の最も盛んに分泌する時のみ別居せしめ其他は下文の如く注意すれば同棲するも可なり

（ろ）患者は人の集合する場所に出入するを避く可し之れ自己の疾病に害あるのみならず又他人に傳染せしむるの恐れあればなり

（は）患者用の手拭、臥具、枕、金盥等苟くも眼脂の附着し易き者は嚴に之を區別し且つ其置き場所を定め決して健康なる家族と共同混置すべからず又同病に悩める者の間に於ても可成此方針に從ひ所置すべし

（に）患者用の器物にして洗濯し得べき者は時々、五十倍の石炭酸水又は廿倍の重曹水に浸して洗濯すべく其他の者は時々日光に爆らして乾かすべし

（ほ）患者の用ゆる手巾及眼拭布は必す清潔なる晒木綿を一旦煮沸して乾燥したる者か又は醫師の用ゆる脱脂綿紗を用ゆべく縮緬或は其他の絹布類を用ゆ可からず之れ絹類は眼脂及び涙液を吸ひ込み難く着色の者は汚れを知り難きが故に自然に不潔となり易く殊に赤色なる者は眼を刺戟すること強きが故に害あり

（へ）患者は酒、煙草及房事を禁するの外勉めて風、塵埃及炊煙を避くべし

（と）患者殊に眼脂の盛んに分泌する者は營業風呂浴湯及温泉に入る可からず之れ病毒を傳染すればなり

（ち）患者浴するときは先つ浴槽外の湯又は水を以て其指尖及顔面殊に眼邊を清潔に流ふべし且つ健康者の入浴したる後最後に入浴すべく又浴槽中に於ては決して顔面を洗ふべからず

（り）患者は夜中長が起きを禁じ起居、飲食、睡眠等を適度に爲すべし

（ぬ）眼の洗滌奄法水眼拭布の古き者は必す傳染の憂なき所に捨つべし

（る）病室内の蟲、建具等は時々消毒藥を撒布るが或は日光に爆露して乾燥すべし



寄書

●東宮殿下行啓の衛生思想

青木病院長 醫學士　竹中成憲

今回東宮殿下行啓遊ばせらるゝに就き竹中學士は縣民に衛生上の注意を與へられたり（中畧）

殿下近来益々御壯勇に渉せられ未た麻疹を御經過遊ばせられず行啓の地麻疹及びインフルエンザの流行なきを選ばせらるる其他赤痢流行の地を避け賜はるゝは素より其所民として疫地に行啓を仰ぐか如き事あるべからず然れは即ち靈雨を希望して其雨ふらざるものは夫れ傳染病なる哉

夫れ麻疹は空病を介して病見より健見に傳ふ大人の之に罹らざるは幼時一回之に感染したるに因る故に大人は豫防の必要なし病見を滅するの法は病見を「隔離」するに在り西洋にても麻疹の流行に當り其死亡數少き場合即ち善性なる流行に在ては健見をして麻疹患者より遠ざからしむる事をなさず却て好んで居を同ふせしめ健見の之に感染する事を希望す何となれば一度麻疹に罹るときは終身再び之に罹る事なく即ち免疫となる事を知ればなり我國に於ても亦此事あり此際此風を避くべきや明なり

赤痢は老若男女を論はず然れども寧ろ成人男子に多し故に社會の主成分の疫病にしてコンモンセンスあるものゝ病なりとす其之に罹るものは食事の不攝生を以て主因とす冷水飲用特に然り然らは其之を避く

る敢て難事にあらさるなり東亞隣國衛生制度不備にして却て本病の皇國に比して少きもの其因彼等の冷水を用ゐず水を服するや必らず先づ之を煮沸するの慣習あるに因る東洋の文明國を以て自任するの吾人宜しく之に鑑むべきなり況んや未だ水道を有せざる地方に於てをや

多數の地恐らくは既に春期種痘を了へたるならむ若し夫れ未だしものは此際速に之れを施行するを要す

之に據て之を觀れば麻疹万一來るも其數を增加せしめず赤痢の發生も亦豫防し得るなり天然痘の種痘に據て以て安全なるを得るは素人も亦之を知る然らば則ち吾人は安樂の裡に在るも行啓の如何は實に間髮を容れざるの所にあり是れ吾人の日夜痛心する所なり

今回新潟縣に於て通御拜觀人心得を定め（凡十九項より成る）其第三項及第四項にに左の如く記す

一、傳染性疾患殊に八種傳染病、肺結核、麻疹等に罹りたる者及全快三週間を經ざる者並に其家族は御道筋に接近すべからず

一、麻疹流行地方の者は可成拜觀を遠慮すること

當を得たるものなり聊蕪辭を草して地方の注意を促す事然りと云爾

●正誤

第百四十九號竹中醫學士寄書「胃癌の話」中第二假第三行目「手足に來る事なく」とあるは「少なく」の誤

●水原氏演說中挿入すへき分

產褥熱豫防法の條生殖器の組織は柔らかになつて居りますの下括弧の內に加ふ（外部には見得る程の創面はなくとも內部には必らず創傷のあるものでござります其證據には如何程輕き出產にても少しも出血なきと云ふことはござりません加之後產は必ず子宮付着面より剝離するものなれば後產大の創傷は如何なる產婦にても免れざるものであります故に）產婦は一のか負傷者と見て差支なし

看護法

普通看護法（二十）

Dr. T. S.

外科的の看護法

●止血法の事（前號の續き）

顳顬や、頸の喉頭の兩側や、腋下や、上膊の内側や、肘のをれめや、手の根元の内側や、手掌や、股の所や、大腿の内側や、膝のをれ目や、足の内くるぶしの後や、足の背中抔には大切な動脈がありまして、此上に指を當て見ますると脉を搏つて居りますから直ぐ知れます、されば看護をなさる方々は豫め此等の動脈の位置を心得て居て、若し此部分に傷をした人があつて、傷から鮮紅な血が流れる樣であれば、之は前に述べた大切な動脈が傷ついたのであると云ふ事に、直ぐ氣が付く樣になさらなければなりません、

扨て動脈が傷ついて血が澤山流れ出る樣であれば、先づ人を馳て醫者を迎へるのが第一でありますが、之と同時に指で傷ついた動脈をしつかりと壓へて血が流れ出ない樣にして、醫者が來る迄其指を離してはなりません、又出來得るなれば傷の所を高くして置くと血の出方が尠なふ御坐います、

俗間では傷をすると直ぐ袂くそを取つて付けたり、或は又莨の粉抔を付けますが、之は餘り好い事では御坐いません、袂くその中には色々な有害な埃や黴菌が混じて居る憂ひがありまして、其の爲に傷口から身躰の中に毒を入れる恐れが御坐います、でありますから血を止めるに最も好いのは、前にも述べました通り動脈を壓へるので御坐います、之は指で壓へましたり、或は又足や手でありますと、紐で締めたり或は又場所に依て斯云ふ事が出來ない所では、傷の中に清潔な布片抔を詰めて、之て動脈を壓へます、

動脈を壓へますのには、傷の中に指を突込んで之て壓へますか、或は又傷をした所よりも胸に近い方で皮の上から動脈を壓へても宜しう御坐います、其譯は前にも申上げました通り、胸の中には丁度左の乳の直ぐ下の所に心臟と云ふ大切な器官が御坐いまして、之が丁度水道に譬へると、淀橋の水道源の樣なもので、喞筒と同じ仕掛けて血を動脈に送る器官で御坐います、てありますから時々皆さんが御覽になる通り、往來抔で水道の鐵管が破裂した時には、其處よりも水道源に近い方で止めると、すぐ水の吹き出すのが停止するのと同じ樣な工合で、動脈でも又心臟に近い方で之を壓へると、血がそれより先へは流れませんから、つまり傷から血が出ない樣になるので御坐います、斯くは申すものゝ動脈を壓へるのには、矢張り動脈の位置を豫め承知して置て、平生からまさかの時に之が壓へられる樣に稽古をして置く事が必要で御坐います、動脈の位置は委しく言へは限りは御坐いませんが、極太い動脈丈けは此圖を御覽になれば、大凡そ合點が付く事と存じます(編輯員曰く挿圖は印刷の都合に依り次號に讓る)

扨て前にも述べました通り、動脈から出血した場合には指て壓へて之を止めれば好い樣なもので御坐いますが、さて此の指で壓へると云ふ事が、中々永くは續きません、直ぐ指が疲れて來て力が弛みます、てありますから手足てあれば寧ろ傷よりも心臟に近い方を、紐なり手拭なりで强く縛つた方が宜しう御坐います、紐や手拭の代用に「ゴム」の這入つた「ヅボン」釣りの樣な彈力に富んだもので縛れば一層宜しう御坐います、又縛るのも只だ一廻りまわした計りでは充分締りませんから、二廻りも三廻りもまわして堅く締めるのが宜しう御坐います、又紐なり手拭なりで手なり足なりの周圍に「わな」を作つて之に棒を差込んでぐる〳〵廻して締めても宜しう御坐います、委しくは圖に就て御研究下さいませ、(編輯員曰く圖は同じく次號に讓る)其外又清潔な綿なり布片なりを丸めて之を動脈の上に當てがつて、其上か

ら堅く繃帶を施して置ても宜しう御坐います、併し前に述べた樣に、手や足を締めて血を止めるのは、決して二時より永く施して置いてはなりません、若し之より永く締めて置くと、締めた處より先きの部分が潰疽に陷いります、てありますから若し二時間になつても醫者が來なければ、止を得ませんから、手なり足なりを高く上げて、締めた手拭なり紐なりを解いて、傷の中に清潔な綿なり布片なりを詰めたて置くのが宜しう御坐います、消毒「がーぜ」が手許にあれば之を用ひるに過した事はありません、斯云ふ風に詰めた上には更に繃帶を施して置くので御坐います、此の「がーぜ」抔を詰めて血を止めると云ふ方法は、頸や胴に傷をして強く出血する場合には、最もよい方法で御坐います、又手から血が強く出る時には、肘を強く曲げても血が止まります、之は矢張り動脈が押されるからでありまして、此の事は肘を強く曲げますと脉が止まるのでも分ります、

扨て斯云ふ風にして血が止りましたら、最早決して傷に觸れないで、醫者の來るのを待つのが宜しう御坐います、若しそうでないと再び血が迸り初めます、

又假令ひ斯云ふ風にして幸に血が止まつたからとて、それで決して安心が出來る譯ては御坐いません、之は只た一時應急手段として、患者が多量の血を失なふのを防いだ計りてあつて、本當に血を止めるには、矢張り醫者が來て血管に結紮を施さなければだめてあります、結紮と云ふのは血の管を見付けて之を縛る事て御坐いますが、之は醫者でなければ出來ません、

怪我をして血を太く失ひますと、其人は蒼白になり冷却て、脉も殆どなく、人事不省となります、斯云ふ場合には可成頭部を低くし、足部を高くし、毛布の類をかけて暖かくし、少量の酒類、多量の水や湯を呑ませるのが宜しう御坐います、之て止血法の事は終りと致しまして、次には外科の看護に最も必要な消毒の事を御話し致します、

質疑欄

質問者 愛知 深田幸子

問 非水（飲料水を少しく離れたる場所に導くには如何なる材料を以て懸樋を造れば衛生上無害に候哉御示教を乞ふ

解答者 本會 幹事員

答 水道に用ゐるか如き錆止を爲したる鐵管最も可なり、但し家の中などにて鐵管にては仕掛けに不便なれば、同しく水道に用ゐる鉛管を用ゐらるべし

質問者 八王子 一會員

問 婦人月經中入浴は害ありて聞きしが如何なる害あるや御示教下され度候

解答者 本會 幹事員

答 入浴して差支へなし、但し餘り熱き湯に這入らぬ事と、身体を洗ふ爲め餘り劇動せぬ樣御注意ありたし、又た局部には清潔なる布片の類を挿入し置かるれは何ほ可なり

質問者 肥前 立野階子

問 身体健康の男にして時々精神衰弱症に罹る事ありしは如何なる故に御坐候哉伺上候

解答者 本會 幹事員

答 身体全く健康にて而も時々精神衰弱に罹らるゝとならは、こは其都度精神衰弱を惹起すか如き原因に遭遇せらるゝが爲めと存じ候、されは爾來は可成斯の如き原因に接近せぬ樣御注意專一に候、申す迄もなく遽かに過度に精神を勞せぬは勿論、適當の仕事に適當の休憩を以てし、飲食其他の事にも過度と云ふ事を愼しみ給ふべし、

質問者 地方の一會員

問 第百四十六號御會發行の雑誌に傳染病の中に肺結核及び癩病は呼吸器より傳染するとの事にて御坐候ひしが私夜學生の中に癩病患者二名之あり一

名は顏のあたりに時々紫色の斑點を現し顏色いろ〳〵に變じ一名は足のあたりより膿汁の如きもの出て居りしが身体かよわき私に於ては何となく心地惡しく候されば如何豫防致し候てよろしく候哉御教示下され度願上候

解答者　本會　幹事員

答　肺結核抔が呼吸器より傳染する事は慥には候へ共、さりとて健康なる呼吸器よりは中々傳染し難きものに候、左もなくば醫者は悉く肺病や癩病に罹る譯合に候、されば質問者も己れの身体を健康にし、傳染病の傳染するが如き損所を作り置かざれば、例へ傳染病患者に接近すればとて、そう直ちに傳染するものには之なく候、丁度損所の多き家屋は風に逢へば直ぐに倒るれど、丈夫な修理の行屆いた家は、强い風に逢ふとも平氣で居ると同じ譯けに候、尤も好んで肺結核患者や癩病患者に接近し給へと御勸め申すにはあらざれども、質問者の如く無闇に神經を起し給ふにも及ぶまじと存じ候、又た御質問中に述べられたる容体のみにては恐らく同校の兩學生もあながち癩病患者とも見へ不申候間、左程に御心配なく精神幷に肉体上に適當の勞働と休息を與へて健康無比の婦人と爲り給ふ事肝心なり、

質問者　新潟　一會員

問　ブリキ板幷にアタン板（鐵に亞鉛を引きしもの）にて造りし器にて沸せし湯は飲料或は食器の洗淨に用ひて害無之候哉若し有害ならば是を防ぐの方法有之候哉

尙亦右樣の器は至て錆を生じ易く候得共錆は人体に害を與へず候哉

右の件々御敎示被下度候也

解答者　本會　幹事員

答　ブリキの方はさしたる事もなけれど、亞鉛引の方は用ゐるに從ひ其表面の白きもの丶附着するを見るべし、之れ决して無害のものにあらざれば、强いて此等を用ゐ給はずとも、比較的價の廉なる鐵製の器物を用ゐ給ふ方遙に得策と存じ候、又ブリキ並に

亜鉛引の器物に錆の生ずるは、之れ上にきせある錫なり亜鉛なりが剝離して、下地なる鐵が直接に空氣に觸れて錆を生ずる譯なれば、之は別に害なし、されと錆の上には兎角不潔物の附着し易きものなれば、强て之を用ゐ給ふにも及ぶまじ



痔の話

Dr. S. G.

痔と云ふのは至て多い病であつて、之に艱む人は我が會員諸姉の内にも少くない事と思はれる、されば本誌の餘白を借りて、痔と云ふものはどう云ふもの、之を防ぐにはどうすれば好いか、又之に罹つた以上は、どう云ふ風な治療を加へればよいかと云ふ事を、ざつと御話して置くのは、あながち無用な事でもないと思はれるので、

扨て素人が痔と呼んで居るもの丶内には、醫者の方で云ふと、色々なものが含まれて居るので、同じ肛門の病でも、痔核と云つて血管が膨れて來るのと、痔瘻と云つて肛門の周圍に穴が明くのとは、只だ見た所が違ふ計りでなく、其の原因も異なれば其結果も大に異なり、隨つて其の治療も異なつて來るのであるから、此處では此等を區別して御話した方が、適當であろうと思ふ、扨て先づ第一に痔核から御話しすれば、之は肛門の中の方即ち直腸と云つて、腸管の終りの部分の周圍に在る、血の管が膨れて來て、丁度車夫や抔の樣に足を使ふ人の腓部を見ると、血の管がうねつて靑く腫れ上つて居るのを見るが、丁度之と同じ樣に腫れ上つて結節を爲し、其の爲に直腸の壁を爲して居る膜粘と云ふ皮も追々と炎症を起して腫れるのである、痔核は肛門から直ぐの所にも出來るが、もつとずつと奧の所にも出來るのである、之が出來ると粘つた液が肛門から流れ出て、時々之に血を交へるのである、其外又痔

核があると絶へず大便が出たくなり、さりとて出るてはなく痛みもあれば、或は便泌する事もあつて血は度々流れ出て、患者は其の爲に大に弱つて來るのである、粘膜も亦終には爛れて、肛門の周圍は得て不潔な部分であるから、其處から毒でも這入ろうものなら、化膿して痔の結節は腫れ上つて暗紅色となり、立ても居ても痛んで堪らない樣になる、之と同時に熱も出て來て、運惡く血の中に毒でも這入ろうものなら、それこそ大變である、又大便の時に痔の結節も便と共に肛門から出て、若し之が戻ればよい樣なもの、左もないと之が爛れて潰瘍に陷ゐつて大騷ぎとなるのである、此等の事は痔を病んで居るヽ方々は充分經驗のある事と思ふ、

扨て此難儀な病の起る原因は何んであるかと云ふと、之は醫者の方でも隨分議論のある事であるが、痔の原因の中で最も多いのは、硬い便か直腸に詰つて、之が其の壁を壓す爲に、其處に追々と欣衝が起つて、とうくへ血の管が腫脹して來るのである、論より證據痔核は立働く人よりも、坐業を採つて居る人に多いのではないか、之は坐つて計り居る人は立て働く人に比べると、腸の動く事も少なく、隨つて大便も結し勝に成て來るからである、

されは痔の起らぬ樣にするのは、前に述べた樣な原因を除く事が必要であるので、即ち坐業の人は日々相當の運動をして、腸の蠕動をよくし、便泌しない樣にするのが肝心である、

扨て愈々痔結節が出來た場合には、一日も早く治療を加へるのがよい、太した事でなくとも身體に病を持つて居て、治さずに置く事は頗る不愉快の事である計りでなく、ひよつとすると前に述べた恐れがあるからである、されば治療はどうすればよいかと云ふと、之は今日では或は燒き取るとか、或は藥を注射して結節を凋ませるの杯が、最もよい方法であるが、之は外科醫の手を煩すかり外ないのである、善は急げと云ふから、一日も早く治療を請ふのがよい、兎に角痔核のある人に便泌は禁物であるから、緩か

な下剤を用ゐて便を柔かにして置く事を忘れてはならないのである、次に

痔瘻と云ふのは痔の中で最も性質の悪いので、之は肛門周圍炎と云ふ病の、直り損なつた爲にも起るが、最も多いのは結核黴菌の爲に起る痔瘻であつて、之は丈夫な人にも起るが、併し肺なり腸なり身体の他の部分が、結核に罹つて居る人に結核性の痔瘻が起るのが多いのである、

前にも述べた通り痔瘻と云ふのは、肛門の周圍に穴が明くのであるが、之が丁度此の圖に在る通り、直腸の中から穴が明いて來るのもあれば、或は又肛門の外から明くのもあつて、此の穴は貫通してあるのもあれば、又途中で止まつて居るのもあり、或は又方々に枝を出して居るのもあつて、丁度「もぐら」が地中に掘る穴と同じ様な有様である、

扨て斯云ふ痔瘻に罹ると、絶へず膿が肛門の周圍に出て、通便は不順となり、便の度毎に痛みを感じ、病人は追々と弱つて來るのである、斯云ふ風であるから、之を放擲して置くと、遂には他の臓器にも結核を生じて、其の爲に斃れて仕舞ふのである、されば一日も早く適當の治療を加へなければならないのであるが、今日の處では痔瘻の根治療法と云ふのは、外科的に之を切り開いて、悪い處を取り去るより外に仕方はないのであるが、俗間には妙な迷信があつて痔瘻を直すと、其の爲に肺病が起る杯と云つて、醫者が如何に勸めても療治を加へない人があるが、之は大いな間違で、痔瘻を直した爲に肺病が起るのではなく、反つて肺病患者には結核に罹る人が多いから、假令ひ療治を加へて、痔瘻の方は根治しても、前からあつた肺病の方が段々進んで來ると、恰も痔瘻を直した爲に肺病が起つたかの様に見へるのである、されば痔瘻に罹つたらば丈夫な人なれば、早く之を根治して置かないと、假令ひ性質の悪くない痔瘻でも、之が結核性に變ずる恐れがあるし、又結核患者で痔瘻に罹つた人なれば、猶更ら速に治療を加へないと、痔瘻の爲に身体が益々衰へて、病氣に對

する抵抗力が弱くなるから、一方の結核の方も益々進んで來る恐れがある、併し斯くは言ふもの丶、既に重くなつた肺病患者抔が痔瘻に罹つたからとて、之に外科的の治療を施してよいと云ふのではない、若しこんなのに手荒い事をすると、其の爲に死期を早める樣なものであるから、此場合には醫者に相談して病人の苦痛を、可成和らげるやうなる方法を講ずるより外に道はないのである、次に

肛門裂創と云ふのは、讀んで字の如く、肛門の周圍が少しく裂けるのであつて、之は誠に痛みの烈しい難儀な病氣であつて、之れの起るのは主に硬い便や、色々の異物の爲に肛門に傷が付く爲であるが、又お產の時にも之が起る事がある、肛門裂創のある人は通便の度每に、肛門が劇しく痛み、一時間位も經たずば此の痛が止らないのであるから、遂には病人が痛みを恐るゝ爲に、成る可く通便を我慢すると云ふ樣な風になつて來るのである、

扨て此の難儀な病氣を直すには、今日では外科的に療治をすれば直ぐ治るのであるから、若し此の病に罹つたらば、すぐに適當な醫者にかゝつて治して仕舞ふがよい、其の次は

脫肛であつて之は極く若い人に多い病で、丁度痔核が年老に多い樣な割合である、脫肛と云ふ中にも色々あつて、ほんの肛門の直ぐ中の處が、肛門から外に出るのもあれば、又重症になると直腸がずつと脫出して來るのもある、之は見れば直ぐに分るのであるが、此の病氣は膀胱結石と云つて、尿の溜る囊の中に、石が出來る病氣に罹つて居る子供にはよくある事で、之は多分子供が強いて小便を出さうする爲に力むから、遂に直腸を肛門から押し出すのであろふ、之と同じ樣な譯で尿の出る道の細くなる病のある男子にも多く、又度々續けてお產をする婦人にも脫肛が多い、其の他又老人や、度々便泌する人抔にも多いのである、

肛門の爲に肛門から脫出して居る、腸の粘膜は、着物抔に擦れて、腫れたり爛れたりして、從つて痛も

劇しければ血も出て、病人は消化が惡しくなり、段々と弱つて來る計りでなく、時とすると出て居る腸が潰疽に陷いつたり、或は又挾まつて詰つて仕舞ふ事があつて、其の爲に非常な危險に陷いる事がある、

此を治すのには輕いのであれば、脫肛が起らぬ樣に脫肛帶と云ふ道具て、止めて置くと追々に治つて來るが、手重いのになると、矢張り外科醫の手を借るより外に道がないのである、

（以下次號）

中外彙報

●虎列剌病襲來の虞

北里博士の說なりと云ふを聞くに目下の處別に是れといふ傳染病もなし天然痘などは種痘があるから先づ安心なりと又過日池上にて犬に咬まれし富田といふ少年は現に傳染病研究所に入院して居るが是れは亦た酷い咬まれやうで全身に百三十餘ヶ所も傷を負ひ而も夫れが化濃して居るので熱も高く三十九より四十度にも昇つて居るが此の患者を診ると私は直ぐに犬を撲滅して來いと命じた處漸やく一匹連れて參り他のは犬殺しが居つて持つて歸つたと申しますが何と危險ではありませんか夫れから其危險を思ひ出しましたが本年は何うも虎列剌病が流行つて來さうて香港ては目下中々流行して居るさうてす處が香港は御承知の如く商業の盛な土地柄ゆゑ傳染病があるといふては直ぐ夫れに影響を及ぼしますから何うしても隱蔽する恐れがあるのです其上多く住む人は支那人てすから尚更其掩蔽が出來易うございます何に致せ此際日本でも大に注意しなければなりますまい尤も病の來さうな神戸大阪橫濱抔は已に水道が布設されてあるから第一の媒介物なる飮料水丈けは先づ以て氣遣ふ事はありませんが若し不幸にして直樣內地へても入込まうものならそれこそ由々しい事にならうと思ひます云々と述られしと云ふ

●赤十字病院設立の事

赤十字病院を全國各地に增

設せんことは各縣知事の建議と共に赤十字社本部にても種々調査せしが多數の病院を一時に開設するは獨り經費の許さゞるのみならず諸般の設備に於ても決行し難き事情あるを以て先づ九州、中國、東北に各一ヶ所の本社直轄の病院を設立し其他支部に於て經費其他の設備の全きものに限り其希望を容れて設立せしむるに内定せりと云ふ。

●全國傳染病　去る三月中に於ける北海道廳以下各府縣の傳染病者を聞くに左の如し

赤痢患者	九二	猩紅熱患者	一三
同　死亡	二一	ペスト患者	一
腸窒扶斯患者	七六八	實扶垤利亞患者	一、五八九
同　死亡	二一	同　死亡	四四〇
疱瘡患者	一		
發疹窒扶斯患者	一		

●看護婦試驗　同試驗は去十四日午後零時三十分より東京府廳に於て執行中なるが本期の志願者は百二十二人の處全部試驗のゝめの病氣欠席等にて多少減少せしが其問題は左の如しといふ

第一日

第一問　罨法の種類目的及び用法

第二問　心動に就て記載せよ

第二日

第三問　胃の位置及び形狀

第四問　營養の主成分とは如何

●印度のペスト　印度に於けるペスト病は目下頗る猖獗を極め居る由にて孟買領事より其筋への報告に依れば四月七日より同十五日に至る一週間印度全國に於けるペスト病死亡者數は二萬五千六百五十五人にして漸次其數を增加しつゝありと云ふ。

●癩病患者取締　全國現在の癩病患者は約四萬餘人の多數にして之が系統を有するものは少くも九十萬餘に上り益々增加の傾向あり熊本縣下の淸正公の附近部落或は府下の荏原郡大井村の如き其他各府縣孰れの地方にも二三の癩病部落あり而かも二三地方廳を除くの外未だ嚴重に其取締を行ふものなく甚しきは該系統に屬するものにして飲食物の營業に從事するものあり衛生局にては相當の取締法を設くるに決し中央衛生會議に諮問すべしとなり

●比島の虎列剌病　四月二十日より同三十日に至る十一日間に發生したるフヒリピン島の新患者總數千百十三人、死亡者總數八百五十七人にして本年初發より同日に至る累計を擧ぐれば患者總數千八百三十九人死亡者總數千三百四十四人なりと

●倫敦の人口と長壽者　倫敦は百年以前よりは三百五十萬人増加し現在の人口は四百五十三萬六千五百四十一人にして内百歳以上のもの十人最長命者は百五歳の女なりといふ

●女子と男子の數　倫敦にては女子の數は男子よりも二十五萬人多く未婚女子は百四十三萬余寡婦は十九萬余未婚男子は百二十九萬餘なりと

●草取便法　雜草を除くには石油に水をまぜたるもの若しくは「ローハ液」又は鹽水等にてよく雜草を退治することを得べし草取は清潔法の一助ともなれば…………

●キャベツ菜の效用　西洋の言ひ傳へに酒に醉ひたるときは「キャベツ」を食へと云へるよしなるが歐洲にて亂醉豫防藥中には「キャベツ」の種子を含み居るといふ

●最低温度の液　佛國の理學會々員ダルソンヴアル氏は普通の石油中より水點下二百度に於ても凍氷せざる液を發明し之を石油イーサーと稱するよしなるが化學上には勿論又夏季室内を冷やことを得べしといふ

●看護婦會の新設　東京婦人會事業の一として看護婦會を小石川傳通院前に設立し松井、伊藤、安井其他の貴婦人其事務を擔當して博く世間の求めに應ぜらるゝよし近來の美擧と云ふべし申込所は小石川區表町百九番地松井とも子方なりと

●大日本婦人教育會の懇親會

四月廿六日同會に於ては鍋島侯爵邸に於て午后一時より懇親會を開かれたり折惡しく雨天となりしかば庭園の趣向散歩等は見合せられしが名に負ふ侯爵邸のことなれば室内何れも善美を盡され其三階は遙かに品川灣を眺望して風景特に絕佳なり餘興には能狂

言、うつぼ、附子、丼鰡等あり室内各所にコーヒー紅茶、すし、だんご菓子店等の設けあり役員其擔當を定められて順序もよく各所至る處鄭重に接待せられたり雨天に拘はらず出席者も二三百名ありて頗る盛會なりき



食物調理法

内外實用料理

西洋料理

横井玉子

●牛の細切肉(スチウ)

牛の肉一斤を薄く切り一合五勺の熱湯を共に鍋に入れ之に胡蘿蔔、丸葱の賽の目切りを加へ食鹽と胡椒とにて味を付け凡そ一時間蒸し煮して泡を掬ひ去り饂飩粉と大匙一杯の醬汁とを和しよくかきまぜ再び沸立たせて皿に盛るべし

●氷菓子の製法

牛乳四合に白砂糖半斤雞卵の蛋黃十二個を加へてよくかきまはす之を鍋に投じてかきまはしながら粗と之を沸立たせ其沸立つを待ちて直ちに火より下して鍋のまゝ冷水に漬けて冷しその全く冷えたる頃小匙半杯の「レモン」汁を加し鍋より之を「ブリッキ」製の筒に移ししかと蓋をなし深き桶に入れ筒の周圍に氷の塊と多分の鹽とを入れてたえず筒を動かし廻せば凡そ十五六分間乃至二十分間位にして筒中の混和物こり凍りて上等の(アイス、クリーム)を得べし但し桶は市中にてひさぐ所の器械の桶を用ふればだ更によろし

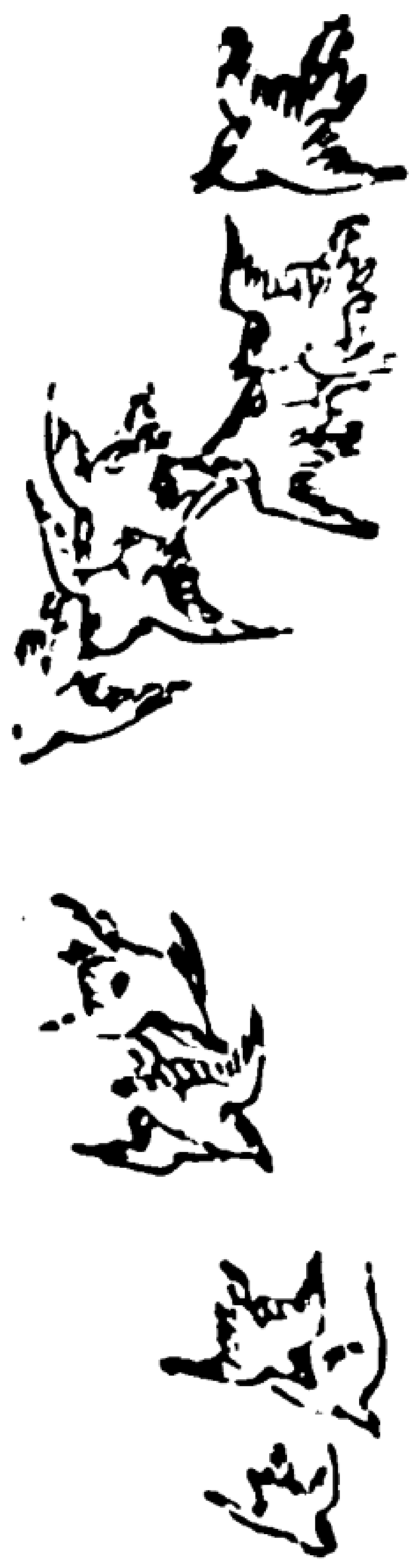
實たりとて日越よい越せしものを
もつたいないと多食ふまじ



大日本婦人衛生會記事

●本會五月例會

五月三日第一土曜日午后一時より例の如く東京女學館講堂に於て開會三宅博士の家庭看護法醫學士田村光顯君の（家庭衞生に關する婦人方への希望）と云へる演題にて講演あり役員には濱尾副會長、羽田、吉武、岡田宮下穗積濱田松前子爵夫人、松平芳子等（十八ノ）にして今回洋行せらるゝ高橋夫人ルイゼ氏にも參會せられ會員も可なり出席し四時半頃散會せり



●本會講師招待會景況

本月十三日午後六時より本會役員の發起により上野精養軒に於て一昨年下半期以來本會の爲め講演せられし講師を招待して晩餐會を催せり高橋博士夫人ルイゼ氏には今回博士と共に獨逸へ渡航せられ本會の景況をも同地婦人の團体へ披露せらるゝよしなれば幸ひ同夫人をも招待せり出席講師には醫學士木下正中、理學博士高橋順太郎、山根警察署長、醫學士佐藤恒久、醫學士神保三郎、醫學士三浦省軒、宮本仲、醫學博士岡田和一郎、醫學士呉秀三、ドクトル加藤照麿、水原漸、醫學士田村光顯、醫學博士緒方正規、醫學士山田鐵藏、醫學博士栗本東明、醫學博士三浦謹之助（順次不同）諸氏にして役員には濱尾副會長羽田三緒子濱田捨子岡田徳子緒方悦子丹波貞子山本多穗子松平芳子松前子爵夫人松井子爵夫人三浦敎子宮下侯子（イロハ順）等參會せり鍋島會長には梨本宮殿下の御用の爲め缺席せられたり午後六時開會緒方博士には高橋夫人を宴席に導かれ宴終る頃副會長には左の辭を述べられたり

●濱尾副會長の辭

今日は皆樣御多忙の處を御繰合御出下さいまして誠に有がたう御座います此會も追々會員の數も增加して參り支會も三四ヶ所は出來まして追々世間より信用を得て參りましたのも全く皆樣方が毎會有益なる御話をなされました結果と深く御禮を申上げます併しまだ此樣なる事では中々充分な働き

は出來ませぬと存じます
一躰衞生と云ふことは婦人が重もに行はなければ迚も充分なことは出來ないと思ひますたとへば一家の事に致しましても人まかせに致さず夫人自身が注意して參りましたなら追々社會の事に及ぼすことゝ思ひますゆへ皆く廣めねばならぬことゝ存じますが何分此會は婦人許りの手ひとつて御座いますから著るしき進歩はいたしませんがだんだん流行病もふへて參ります折から此先何にか廣ろめて行く方法がありますならば御助力を願ひまして實行致したいと思ひます
此度高橋博士は御用で獨逸へ御夫人と御同行になりますが幸ひ今日御招き致しました御夫人は豫て本會を御賛成で會員にもなられて居られますあちらへ御出になりましたなら定めて此樣な會も澤山あることゝ存じます故ドーか此會の事も御話しも願ひ又御歸りの節には何にか爲めになる御話を澤山伺ひたいので御座います

今日は御忙しい處を御招き致しましたが格段のもうけも御座いませんで御迷惑の事と存じますがゆる〱御話下さいますやうに願ひます
會長鍋島侯爵夫人には今日御出の積りでございましたが急に梨本の宮樣の御用で御出席になることが出來ませんが皆樣へよろしくと申されました
云々

●緒方博士の挨拶

今夕は婦人衞生會の御招きを戴きまして誠に難有御禮を申上升只今副會長の御話しのありました如く總躰衞生の事に於ては男子よりも女子の方が元になッて參らなければ行はれぬ又衞生の中でも尤も研究せなければならぬ重なるものは衣食住てコレに就ても男には充分の注意は出來ません皆婦人方の御注意によらねばならぬことで大人も子供も皆婦人の力によるので我國が歐羅巴に比して子供の死亡數が少ないと云ふのも又御婦人方の御盡力によることで又食事に致しても住居に致しても清

潔に行くか行かないかと云ふのも皆婦人の御注意次第でありますから此等は婦人の恩澤と申さねばなりません今夕は御招待下さいまして難有御座います今日參りますとき宅の八ツ許の女兒が申しますに男の方で御招きすべきに却て御婦人に御案内を受けるとは恐縮なりと申しました云々と挨拶を述べられたり

山田醫學士談話

御食事の濟みまして跡で誠に申上げ悪いが衛生上專門の事として御聞きを願たい此頃では水道が出來まして總て便利になつた隨て傳染病が減ずるであらうと云ふことが考へらるゝか水道ばかりでは傳染病に影響がない事は事實に顯はれ居る獨逸て水道の出來ない前も出來たときとに比して傳染病に影響が少ない初めて下水が出來てから傳染病が減少しましたから傳染病には大した影響はないと思ふ然らば水道許で安心は出來ないと云ふと下水の方に重きを置かねばならぬ今本邦の有様では種々なる事情から容易に下水の實行が出來ない然らば如何なる方法にするやと云ふに第一に厠の改良ですコヽが御食事の後で御聞き苦るしい處です併し衛生上尤も必要な點だと思ふ之を六ッかしく西洋流にすると費用や家屋の構造とで實行が出來ぬから今日厠を僅かの費用で改良しなければならぬと云ふ考で改良厠と云ふものを拵へて一時御用にナッタがアレハ下の便器と上の便器と續いて居つた爲めに下から虫が上ッて來ると云ふ不便があり升私は此頃一ッの便器を作り現在病院で用ゐて居りますが今日あり來りのより臭氣がしないのと不潔物が外にもれぬと云ふ特點があります北里君の處へも二三ヶ据へ付けた之れは只一と口に申すと通例のヒ箱のようになッて居ッて床の外へ出て居ッて夫れが瓶に流れ出ると云ふ譯て其傍から臭氣抜の方法を講すれば臭氣が少ない只此便器は水の用ゐ方は困難ですが清潔にするには水を用ゐなければならぬ其度毎に水を注ぐ

ときは容易に流れ込む樣にするので瀬戸物の角度さへうまくなッて居ればうまく行く若御望かあれば新しいのが病院にありますから御參考になろうと思ひます之れは前に申た樣に下水にかゝわる丈の功力がある譯ではないが第一不潔物を使用する厠の改良が出來たならば傳染病の幾分を除くことが出來ましやう不潔な話しだが一家には尤も缺くべからざるもの故に一言御話し申上升（以下次號）

尙本誌には餘白なきを以て次號には木下學士、宮本、岡田博士、山根學士、佐藤學士、吳博士等近世大家の有益にして而かも面白き當日の談話を掲載致しましやう此の次ぎを御待ち下さいまし！

●本會基本金中へ寄附

終身會員松前子爵夫人には去月懇親會當日終身會費補充發として左の如く寄附せられたり前號誌上掲載漏に付玆に記して謝意を表す

一金拾五圓　子爵夫人　松前藤子

●會員よりの謝狀

肥前の一會員なる立野氏は我質問欄の記事にて大に攝生法に注意せられ此程健康になられしとて左の書狀に金圓を添へて寄附せられたり

一金壹圓也　特別會員　立野階子

くもかす奕と咲きみちし梅花も哀れいまはちり失せて葉櫻のみと相成り候ひしも藤あやめ卯の花などは時を得たりと咲きいでゝ野山のけしきえもいはれぬよきながめにて日々〳〵心地よき時節と相成り申候處ます〳〵御繁榮の御事御目出度存し上候御地は花の都の御事とて春の長閑さは一しほ未さりぬらんと只井中の蛙にて松風の音のみ聞ゆる片田舍のほとりに住なす身には都の春はさこそと心にたゞ空想のみゑがき御羨ましくてなん扨先頃病の床に打ふし居り候ことゝて萬事失禮のみあしからず御許しおき下され度其後御敎への法を守り候處本日にては御陰樣にて快く成る樣に相なり學校にも出勤いたす事を得愛らしき孫子と手に手をとりて遊び居り候へば左樣御安心成し下され度是も一重に御會のありがき賜と深く感じ入候（中略）他の壹圓は實に僅ばかりにて御耻しく何の御用にも立まじくとも何かのたしにも御加へ下され候はばなにより〳〵嬉しく御座候實は去る本月の春期懇親會の折茶菓の費用の内になりとも御加え下され候はばと早くより思ひ居りしも病の爲め萬事意の如くならず實に口惜しく御座候只今御うけおき下れき候はゝ何よりうれしくぞんじ候云々（以下略）

●山形支會四月例會

四月十二日山形市なる偕行社に於て例會を開き中原醫學士には繃帶術に就て講演せられ尙齋藤醫師の演

説もあつて四時散會せりといふ

●宇都宮支會四月例會

四月十三日午後一時より宇都宮招魂社社務所に於て例會を開く同所は櫻花の名地とて殊々出席會員及び傍聽者も非常に多く順次左の講演を終り閉會せしは午後四時頃なりしといふ尚當日の講師演題等は下の如しと

一衣服の話　客員　神野勇三郎君
一トラホーム豫防法　講師　青柳一郎君
一分娩の話及胎兒供覧　講師　吉永彜九郎君

●茨城支會四月例會

四月二十日第三日曜日は例會にかへて水戸市常磐公園に於て園遊會を開き盛會なりしといふ

●高崎支會創立

群馬縣高崎市に於ては横井特別贊成員の發意に依り鋭意同地會員誘導の事に熱衷せられし結果星野衛戍病院長土谷醫會長兩氏の特別贊成員を得本春來僅少の時日間に於て本會々員非常に増加し今や百三十五名の發起を以て支會を設置し尚續々入會者增加の傾向なるが是全く特別贊成員及先入會員の勸誘宜しきを得るは勿論なるも亦同地方人士の進歩的志想に富の氣風察知すべきなり而して未贊成員又は會員たらざる人士にして大に勸誘に勉められたる篤志家は同地に於て壯年醫士として敏腕著實の高評ある秋田聰太郎氏なり同氏は最も熱心に婦人衛生の必要に感激し横井氏を助て同市の醫家教育家有志家の間に奔走遊説せられたりと其他勸誘の勞を執られしは戸枝少佐莊司軍醫稻垣軍醫本多中尉高草木醫師大山醫師豐國義孝の諸氏なりと聞く、斯く同地に多數會員の一致を得ていよ／＼支會創立に至る迄の勞苦は實に容易ならざることなり玆に錄して聊か贊成員諸氏の勞を謝すると云爾

●高崎支會役員の決定

同支會創立に際し役員を公撰し尚之を互撰し若くは特選して左の如く決定せり

高崎支會々長　聯隊長夫人　井ノ口德子
仝副會長　衛戍病院長夫人　星野きよ子

幹事(庶務)　土谷ひやく子　大澤ふく子
同(記録)　三橋ひろ子　齋藤れう子
同(會計)　清水かね子　林　磨智子
評議員　横井昇子　相川すが子　木下芳枝子
仝　松本泰子　田邊爽子　矢島たい子
仝　今井ぶん子　矢島みね子　宮田たか子
仝　相川よね子　馬渡なか子　栗野まる子

●支會設立の順序　高崎支會設立の願書は去四月十七日付を以て同地會員百三十五名の總代として井口徳子より本會長の承認を求められたり本會長は直ちに之を承認しいよいよ別項の如く本月十一日發會式を擧行するに至りたり當日は總裁殿下より賜はりたる令旨本會長鍋島侯爵夫人よりの祝詞をも郵送せり

●高崎支會の發會

五月十一日同地宮元町高等小學校に於て質素にして清雅なる發會式を擧行せしが來會者百二十余名なりき今其概況を記すれば同日十二時前後より會員續々參集す服裝は皆能く規定の制限を嚴守せられ質素なる平常着を用たり井口支會長星野副會長は玄關に在て一々來會者に挨拶し其他の役員は部署を定て會場に斡旋す其分擔左の如し

受付掛　齋藤れう子　大澤ふく子　木下芳枝子　矢島たい子
接待掛　横井昇子　田邊爽子　宮田たか子
會場應待掛　松本泰子　今井ぶん子　馬渡なか子　栗野まる子
庶務掛　土谷ひやく子　相川すが子
會計掛　林磨智子　清水かね子
場内總整理掛　三橋ひろ子

午後一時三十分に至り特別賛成員横井忠國君は支會設置の沿革其他の報告をなし尋て發會式に移る其順序左の如し

唱歌(君が代)	「チルガン」幹事三橋ひろ子	會員一同齊唱
總裁宮殿下令旨	捧讀　特別賛成員	星野葆光君
鍋島本會長祝詞	代讀　特別賛成員	横井忠國君
矢島高崎市長祝詞	代讀　特別賛成員	土谷介次君
祝辭	高崎衛戍病院長	星野葆光君
祝文	私立高崎病院長醫學士	林　曄禮君
祝歌	同振學校長	深井仁子
祝歌	代吟	横井昇子
祝歌	幹事	林　磨智子
祝文	評議員	相川すが子
祝歌	評議員	横井昇子
祝電	陸軍一等軍曹	稻垣眞君
祝歌	陸軍一等軍曹	横井忠國君
唱歌(金剛石)	「チルガン」幹事三橋ひろ子	會員一同

右にて式を終り夫より庭園に出て今を盛りと咲きにほ

ふ勝棚と校舍の間に於て紀念撮影（小幡寫眞師）を爲し次て劒士堤文搭氏及同姬英子并に門生某孃三氏の體育的演技（薙刀、鎖鎌、棒、袋竹刀、眞劒動作等）數番を觀覧して再び席に歸る茶菓の饗應ありたる後左の二氏の講演あり茶菓には役員の意匠を凝らしたる紅白の新菓なり

第一席高崎醫會長土谷金次氏は「個人衞生の總論」と題し老練なる雄辨を以て先づ一般衞生の定義、分類、効果より說き起し家事衞生に論及し空理に走らす着實に實行の必要を奬勵し我國古來の風俗習慣上取捨すべき件々を實例に就て指摘詳論し又世の迷信者を喝破して兒童の家庭敎育に說き及ぼし次て家事衞生を十八項に分て他日細論すべきを約し終りに衞生法の發達は健康長壽の秘訣にして國家生產力の主腦なりと結論し諄々談話的に詳演し非常に滿場の感動を博したり次て陸軍一等軍醫莊司森之助氏は「食餌衞生の總論」と題し快活の辨を以て滔々序辭を述べつゝ本題に入り第一、人體の構成物を系統表に就て說明し第二、人體死活の理を舉げ、第三體溫の發生原理、溫量の計算、體溫の持續を說き去り第四、新陳代謝に論及し系統表に就て說明し此一部分たる食物攝取は即ち予の受持たる食餌衞生に當るなりと簡單に解說し次回より獻立表に由り評價を說くべき事を約して論結せり說き去り說き來るの間滑稽を交へて興味を添へ通俗的に懇篤詳演し大に會衆の歡迎傾聽を買はれたり次て支會長井口德子は謝辭と將來の注意を一言し目出度閉會を告ぐ于時午後五時二十分なりと（横井特贊より通報せられたり）

●當日受領したる寄贈金品左の如しといふ

支會規則壹參百枚
事務所標札
支會印章
體育的演技數番
紀念撮影
金五圓
金五圓
金參圓
金貳圓
金壹圓
金五拾錢

井口德子
星野きよ子
篠原みわ子
土谷金次君
横井忠國君
林磨智子
小幡氏胞君
土谷ひやく子
清水かね子
故水谷靜子
高崎産婆看護婦會
相川すが子
林磨智子

金五拾錢　馬渡なか子
金五拾錢　今井ぶん子
金五拾錢　粟野まる子
金五拾錢　松本泰子
金五拾錢　田邊爽子
金五拾錢　富田たか子
金五拾錢　横井昇子
金壹圓　三橋ひろ子　大澤ふく子　齋藤れう子　矢島たい子
生花壹瓶　非口文會長
雛紙懸　星野副會長　三橋幹事　齋藤幹事
何計川支那鞄　壹個　林曄禮君

●因に記す當會式當日會員に分たれし菓子は本會へも寄送せられしが役員諸氏の工夫せられしもの丈ありて意匠に富み立派なる紅白の打ち物にて徑凡三寸梅の大輪を形取り上部に大日本婦人衛生會下部に高崎支會とあり中央に本會徽章を打ち出せり來六月例會の節本會々場へ持參して出席會員の一覽に供すべし

●改姓

●神田　後藤改　堺わさ子
●神田　和田改　望月みね子

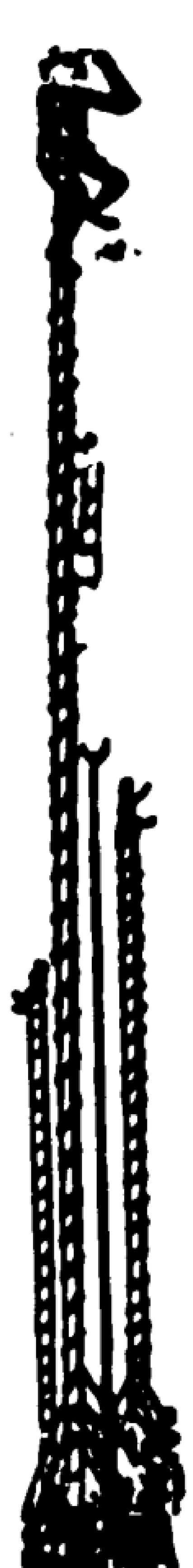
●正誤

前號十四頁ミス、ヒユース君演説とせしは君の字を省くべきを速記の儘印刷せし校正の疏漏に付玆に正誤す

●寄送書籍（新刊）

北島研三譯
處女衛生　全　定價金貳拾錢
日本橋區本町　金港堂發行

本書は米國ミ子ソタ洲カールトン大學衛生學講師ライマン、ビーベリー氏の處女に與ふる忠告てふ書を容易く譯述したるものにして其題目を擧ぐれば先づ植物の生殖より説き起し無脊骨動物魚鳥有袋獸族哺乳動物及婦人の生殖春氣發動期生理上心理上の變化及同主觀的徵候蓄卵と月經の解説健康なる發育の障害惡習慣の結果月經不順、營養運動衣服精神上の誘惑天然の醜行男女交際要及母の資格兩便休息と睡眠娛樂と遊戲結論等にして處女の衛生上必讀すべき良書なり



●本會入會者

○事務所へ申込

●群馬縣碓氷郡里見村大字上里見村廿八　通常會員　岡田せい子
●深川區三好町一番地　通常會員　川村雪子
●下野國宇都宮市塙田町東官舍乙第十五號　通常會員　高橋鏡子
●麻布日本赤十字社病院内　通常會員　間瀬ゆき子
●仝上　通常會員　鈴置けい子
●芝區金杉新濱町一番地　通常會員　村上靜子

○芝　齋藤せん子紹介
●芝區高輪南町三十六　通常會員　吉本すゞ子
○長崎　玉林珎子紹介
●長崎市酒屋町十三赤十字社長崎支部　通常會員　安達貞子
○日本橋　高橋孝子紹介
●本郷區湯島六丁目七番地　通常會員　大八木幸子
○高木幹事紹介
●北海道天鹽國増毛町増毛小學校　通常會員　小鹿菜子
●秋田縣秋田市四根小屋町　通常會員　戸田たき子
○松井評議員紹介
●京橋區三十間堀一丁目六番地　特別會員　松浦はる榮子
○濱尾副會長紹介
●豐多摩郡戸塚村穴八幡上　特別會員　松前光子
○日本橋　田村きく子紹介
●淺草區材木町四十三共立看護婦人會　通常會員　山本ゆき子
●仝上　通常會員　岡本ます子
●仝上　通常會員　中島照子
○岡田幹事紹介
●芝區神谷町十八番地　特別會員　相磯まさ子
○神田　堺わさ子紹介
●神田駿河台鈴木町二、東洋内科醫院内　通常會員　風間倘子
○長崎　玉林わや子紹介
●長崎市酒屋町十二番地第二號　通常會員　川原みき子
●仝上　通常會員　佐藤まつ子
○愛媛　松崎宗信君紹介
●愛媛縣松山市中歩町二十九間戸　通常會員　漆原せい子
○本郷　町野こま子紹介
●北豐島郡巣鴨村三ノ二十六　通常會員　宮本小枝子
●横濱市尾上町三ノ三十四　通常會員　鳥居雄子
○神田　池上利惠子紹介
●北豐島郡日暮里村百五十八　通常會員　鈴木れい子
○芝　岸すみ子紹介
●芝公園第十七號ノ三　通常會員　隈本ちゑ子
○本郷　宮島き代子紹介
●牛込區横寺町八、柘植方　通常會員　川島つね子

●茨城支會入會者

●水戸市上市備前町　特別會員　三宅たき子
●水戸市上市四丁目三番地　通常會員　坪井きみ子

●新潟支會入會者

○評議員　小布施すみ子紹介
●西堀道　通常會員　吉岡ときよ子

●宇都宮支會入會者

○福井よし子紹介
●宇都宮市傳馬町　通常會員　江原きん子
●仝市下塙田町　通常會員　七字すう子

◉高崎支會入會者

○高崎　稲垣壽々子紹介
●高崎市赤坂官宅百四十六　通常會員　小島そと子
○高崎　齋藤れう子紹介
●高崎市龍見町二十五番地　通常會員　天野あい子

●同市宮元町十一番地　通常會員　細谷ゆき子
●同市常盤町二十五番地　通常會員　山田はる子
○高崎　特賛土谷全次君紹介
●同市高崎警察署内署長　通常會員　白石愛介君



轉居

▲會員諸氏御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛必ず御一報相願候

●牛込區赤城下町二十七へ　横山壽子
●臺灣鹽南廳防疫部内へ　鳥居良子
●麹町區土手三番町十番地へ　岡野いく子
●麻布區一本松町二十三へ　關邱子
●牛込區藥王寺前町七十一へ　志岐久子
●長野縣松本町字片端千五十九へ　加藤雛子
●新潟縣南蒲原郡目附町目附病院内　二宮とく子
●麻布區谷町三十八へ　奥田たか子
●芝區佐久間町二ノ十八へ　河野せき子
●麹町區四番町十四へ　三輪田眞佐子
●小石川區白山御殿町百九へ　齋藤竹子
●赤坂區靈南町十七へ　齋藤春子
●麻布區本村町百九十三へ　立川良子
●赤坂區新坂町七十、關口氏方へ　本島かね子
●芝區西久保神谷町十八へ　川添はる子
●大分縣立竹中學校へ　青井純一郎君
●神戸市下山手通四ノ百二十七へ　桑原春子
●赤坂區青山北町七ノ十二、中西氏方へ　島こう子
●本郷區駒込西片町十、ほ二十三へ　石井た美子
●横濱市壽町三ノ百四十七へ　結城榮子
●韓國釜山日本居留地公立病院内　平野とし子
●茨城縣東茨城郡小石川町へ　原田まさ子
●神田區仲猿樂町十七、奥田氏方へ　富岡むめ子
●臺灣澎湖廳官舍へ　山本とき子
●本所區向島須崎町六十六へ　水谷と美子
●高崎市通町大信寺内へ　町田まつ子
●仝市宮元町甲第百五へ　早乙女鈴子
●麻布區霞町六へ　島内幾千代子
●芝區琴平町二、眞田邸内淺理氏方へ　川添香代子
●岡山縣津く町字上ノ町野毛内へ　稲垣しづ子
●神田區一ッ橋通町十三へ　永田靜子
●本郷區田町九へ　中島峯子
●沖繩縣那覇區字久米廿九へ　高木と美子
●府下豐多摩郡淀橋町字角筈八百一へ　千布都代子
●京都市西洞院下立賣下ルへ　渡邊千鶴子
●福島縣若松市榮町一ノ五十六へ　石山富子
●本郷區西片町十、ろノ六號へ　木下正中君
●新潟縣新潟市礎町通四ノ町四十一へ　高山新松君
●甲府市錦町三へ　川上雅登君
●仝　所　川上きん子
●神田區小川町一ノ一へ　築地ふト子
●小石川區江戸川町九へ　内野春枝子
●兵庫縣西須磨字千森へ　植村妙子
●北海道札幌區北一條五丁目一へ　加賀美礼君（加賀美はつ子改）
●甲府市八日町へ　三井なか子
●長野縣下伊那郡飯田町小學校へ　藤原俊君
●神田區五軒町十へ　望月みれ子

私立大日本婦人衛生會高崎支會規則

第一條 當支會は大日本婦人衛生會に倣ひ汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを以て目的とす

第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く

第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會員とを以て組織す

第四條 支會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ事務所へ申込まるべし

第五條 當支會に學術其の他の稗益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす

第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし

第七條 支會に左の役員を置く
會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名

第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す
但役員の任期を一箇年とし再撰するを得

第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす

第十條 當支會は每月一回講話會を開き每年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす

第十一條 會員及賛成員の家族並に篤志賛助員は集會に參列するを得べし但時宜によりて男子の參列は謝絶することあるべし

第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一個月金五錢を出す者とす

第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上宛前納すべし

第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす

第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す

第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす

第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし

第十八條 特に此規則に掲けざる者は本會の規則を準用す

婦人と子ども

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條 當支會の會費は左の六種とす

修身會員 一時限り出金貳拾圓
特別會員 毎月 金參拾錢
通常會員 仝 金貳拾錢
支會員 甲毎月 金拾錢
乙仝 金五錢

第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す

第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす

第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く
會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す
各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし

第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す

第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりてれ慈善販賣店慈善講會等を開くこともあるべし

第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし
會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし

第十一條 一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

新潟支會
事務所新潟市旭町一番町十番戸
河上フサ子方

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を設く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日 講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし 本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より 六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方
山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク 會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスル件ハ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條特ニ支會規則ニ揭ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町
宇都宮支會

婦人衛生雜誌第百五十號每月一回十五日發行
明治卅五年五月二十五日印刷　同年五月二十五日發行

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





●通常會員章

第一號　メッキ製拾五錢、送費六錢

第二號　正銀製五拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第三號　壹圓、送費九錢

御入會注意

御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へとも送費とも必らず御前納のこと

東京府下に限り毎月會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也

追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす

一　會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又價格表記通運便、何にても差支なし

一　會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし

一　轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一　會員中若し本會の障害となるへき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せさるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料		
一行	十錢	總て前金
一頁	參圓	

本誌定價一部廿錢　毎月一回發行

發行所　東京市牛込區矢來町三番地中丸、四　私立大日本婦人衛生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中鶴三郎
印刷者　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　戸上義草
印刷所　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治二十六年四月四日（第三種郵便物認可）明治二十一年二月二十八日（内務省許可）